平 成　２１年 版

事　業　概　要

財団法人 広島原爆障害対策協議会

目　　次

Ⅰ　財団法人広島原爆障害対策協議会(略称「広島原対協」)の概況

1　目　的……1
2　事　業……1
3　沿　革……1

Ⅱ　組　　織

1　広島原爆障害対策協議会の組織図……6
2　役　員・評 議 員……6
3　職　員……7

Ⅲ　施　　設……8

Ⅳ　平成２１年度事業計画

1　被爆者の健康管理事業……9
2　被爆者の健康管理に関する調査研究事業……9
3　被爆者の援護福祉事業……10
4　被爆者の健康診断事業……10
5　高齢者医療確保法等による健康診査事業……11
6　広島市健康づくりセンターの管理運営事業……12
7　放射線被曝者医療の国際協力事業への協力……13

Ⅴ　予　　算

1　平成２１年度予算……14
2　予算の推移……15

Ⅵ　平成２０年度事業実績

1　健康診断事業

(1) 被爆者健康診断……16
ア　被爆者一般・精密検査の実施……16
イ　平成 20 年度被爆者一般・精密検査実施状況……18
ウ　被爆者がん検診等の実施……25
エ　平成 20 年度被爆者がん検診等実施状況……26
オ　原爆被爆者二世健康診断の実施……33

(2) 高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等……34
ア　高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等の実施……34
イ　平成 20 年度健康診査等実施状況……35

2　被爆者の健康管理に関する調査研究事業
(1) 調査研究の実施 …… 46
(2) 被爆者健康診断資料の収集整理と活用 …… 46
(3) 文献の収集 …… 46
(4) 第 49 回原子爆弾後障害研究会 …… 46
(5) 検診結果の統計処理 …… 46
3　被爆者の援護福祉事業
(1) 被爆者相談 …… 47
(2) 被爆者の援護措置 …… 47
(3) 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営 …… 48
4　健康増進事業 …… 51
5　健康教育事業 …… 54
6　放射線被曝者医療の国際協力事業への協力 …… 56
7　平成 20 年研究業績 …… 56

Ⅶ　資　　料
1　年賀寄附金配分金による実施事業 …… 60
2　日本自転車振興会補助金による実施事業 …… 61
3　車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業 …… 61
4　広島県補助金による実施事業 …… 62
5　広島市補助金による実施事業 …… 63
6　日本高等学校教職員組合等からの寄付金 …… 64
7　全国から寄せられた寄付金 …… 66
8　核兵器禁止平和建設国民会議からの寄贈物品 …… 70
9　日本労働組合総連合会広島県連合会からの寄贈物品 …… 70

Ⅰ　財団法人広島原爆障害対策協議会（略称「広島原対協」）の概況

１　目　的

この法人は、原爆障害の研究及び治療の対策並びに原爆障害者の援護の対策について審議し、その推進を図るとともに、原爆被爆者をはじめとする住民の健康の維持増進に寄与することを目的とする。

２　事　業

この法人は前項の目的を達成するために次の事業を行う。

(1) 原爆被爆者の健康管理及び健康指導を行う事業
(2) 原爆障害者の治療の研究及び原爆被爆生存者の実態調査
(3) 原爆被爆者の生活相談及び生活援護並びに原爆障害治療に必要な援護を行う事業
(4) 広島市健康づくりセンターの管理の受託
(5) 原爆被爆者の健康診断その他の健診事業の受託
(6) その他目的達成に必要な事業

３　沿　革

昭和 20 年 8 月 6 日原子爆弾攻撃によって潰滅的な被害を蒙った広島市の被爆生存者達は、永い占領期間中悲惨な状態のまま放置されていたが、昭和 26 年の講和条約の締結、占領政治の終結を契機として「被爆者を救え」という声がおこった。

なかでも日頃ケロイド患者に接する広島市医師会・外科会に属する医師たちは、広島市医師会を動かして県・市当局に働きかけた。その結果、昭和 28 年 1 月、原爆障害者の医療を組織的に推進するために、広島県・広島市をはじめ、県・市医師会、大学医学部、官公立病院等が一体となって、「広島市原爆障害者治療対策協議会」(略称「原対協」)を結成して活動を開始した。

昭和 28 年 1 月	「広島市原爆障害者治療対策協議会」(略称「原対協」)の設立
	事務局を広島市社会課内に設置
昭和 29 年 1 月	被爆者の合同診察を開始
2 月	原爆障害者の実態調査を実施
10 月	事務局を広島市民病院内に移設
昭和 30 年 5 月	原爆乙女 25 名の渡米治療に協力
昭和 31 年 4 月	「財団法人広島原爆障害対策協議会」(略称「広島原対協」)に改組、認可
9 月	原爆病院の完成とともに事務局を同病院内に移設
昭和 32 年 9 月	第 9 回保健文化賞、厚生大臣の表彰を受賞
昭和 33 年 2 月	原対協援護事業として原爆被爆者のうち生活困窮者を救済するため、生活援護金の給付を開始
11 月	お年玉付郵便葉書寄付金の配分団体に指定
昭和 34 年 6 月	第 1 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 36 年 4 月	「広島原爆被爆者福祉センター」建設工事落成
5 月	「広島原爆被爆者福祉センター」落成とともに事務局を同センター内に移設
6 月	第 3 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	被爆者健康診断、職業補導、生活相談等の業務を関始
8 月	『広島原爆医療史』を発刊

昭和 38 年 10 月	「広島原爆被爆者健康管理所」を開設
11 月	第 5 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 39 年 3 月	「広島原爆被爆者福祉センター」の暖房設備工事完成
9 月	オデルカ・カメラを搭載した健康診断車「平和号」で被爆者の胃集団検診を開始
昭和 40 年 10 月	第 7 回「原子爆弾後障害研究会」を開催し研究講演集『20 年のまとめ』を発刊
昭和 42 年 5 月	精密健康診断車(ひかり号)を購入
6 月	日本自転車振興会・島根県・広島市・江津市の補助金を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を建設、被爆者の入湯療養を開始
昭和 43 年 7 月	「広島原爆被爆者福祉センター」の新館増築工事並びに旧館改造工事落成
10 月	第 9 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
11 月	自動分析機(オートアナライザー)を設置
昭和 44 年 2 月	日本自転車振興会・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」暖房設備工事等完成
3 月	テレビジョン X 線カメラを設置
8 月	勤労被爆者のため、広島原爆被爆者福祉センターで日曜健診を開始 続広島原爆医療史『被爆者とともに』を発刊
昭和 45 年 4 月	子宮がん検診を開始
5 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の増築工事落成
6 月	第 11 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 46 年 3 月	「広島原爆被爆者福祉センター」の増改築、空調設備改良工事完成
6 月	第 12 回「原子爆弾後障害研究会」を開催 「広島原爆被爆者福祉センター」開設 10 周年記念展示会を開催
昭和 47 年 5 月	全自動化学分析装置(ハイゼルマーク X)、自動血球計算装置(コールターカウンター)を設置
昭和 48 年 4 月	広島市の周辺町村合併にともなう被爆者健診対象者の大幅増加(約 17,000 人)により、出張健診班を 2 班編成
6 月	第 14 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	被爆二世の不安を除去するため、被爆者の子に対する健康診断を開始(広島市委託事業)
昭和 49 年 5 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を購入
7 月	広島県・広島市からの助成により「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷房設備工事完成
12 月	肺機能検査機(パンスパイロコンピューター)を設置
昭和 50 年 4 月	勤労被爆者のため月 1 回夜間健診を開始
6 月	第 16 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 51 年 6 月	胃集検用テレビレントゲン設置及び自動血球計算装置を増設
昭和 52 年 6 月	第 18 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 53 年 7 月	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室増改築等工事完成 X 線テレビジョン設置及び胸部一般撮影用 X 線装置を更新整備
8 月	勤労被爆者のため月 1 回日曜出張健診を開始
昭和 54 年 4 月	被爆者の胃検診(昭和 62 年に名称を「胃がん検診」に変更)を開始(広島市委託事業)
6 月	第 20 回「原子爆弾後障害研究会」を開催

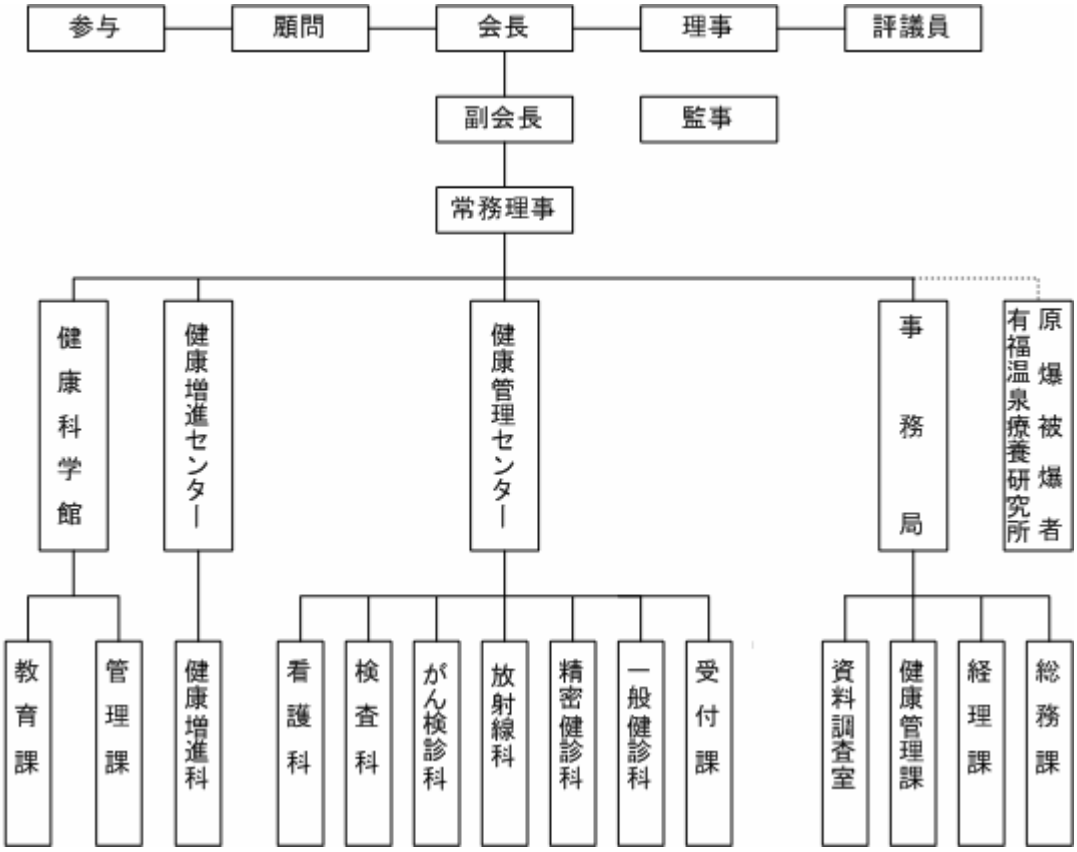
昭和 55 年 2 月	国の施策による被爆者二世健康診断を開始
8 月	自動血球分類装置(Diff-3)を設置
昭和 56 年 5 月	第 22 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	「広島原爆被爆者福祉センター」開設 20 周年記念パネル展示会を開催
10 月	広島県・広島市の補助を受け「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋根防水改修その他工事完成
昭和 57 年 9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を購入
昭和 58 年 6 月	第 24 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
昭和 59 年 9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新整備
昭和 60 年 6 月	第 26 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の車庫上屋根新設工事等完成
昭和 61 年 7 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR501(立位専用システム)設置及び胃透視用 X 線テレビ装置更新整備
昭和 62 年 3 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR502(臥位専用システム)設置及び一般撮影用 X 線装置更新整備
4 月	被爆者の肺がん検診を開始(広島市委託事業)
6 月	第 28 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の食堂拡張工事等施設整備工事完成
昭和 63 年 8 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR201、CR 専用 X 線透視撮影台及び CR 用光ディスク画像ファイル装置を設置
8 月	国の施策による被爆者のがん検診(胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん、多発性骨髄腫)を開始
平成元年 3 月	自動血球計算装置(コールターカウンター)を更新整備及びフィルムデジタイザー、光ディスク画像ファイル装置を設置
6 月	第 30 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
9 月	新規事業の受託に対応するため、寄附行為の一部を改正 「広島市総合健康センター」への移転に当たり、「広島原爆被爆者福祉センター」の施設を広島市に寄贈 「広島市総合健康センター」の開館に伴い、診療所名を「広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター」に改称 老人保健法健康診査及び結核定期健康診断を開始 CR 専用 X 線透視撮影台及び心電図自動解析データファイリングシステムを設置
平成 2 年 4 月	老人保健法基本健康診査(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)・結核定期健康診断の出張健診及び老人保健法・被爆者の出張がん検診(安佐南区、安佐北区、安芸区を除く)を開始
8 月	磁気共鳴画像診断装置(MRI)を設置
平成 3 年 3 月	夜間健診を中止
4 月	被爆者の大腸がん検診を開始(広島県・市委託事業)
6 月	第 32 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	X 線骨密度測定装置及び超音波診断装置を設置
平成 4 年 4 月	被爆者・老人保健法の安芸区の出張がん検診を開始

5 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR7501 を更新整備
8 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(2 号車)を更新整備
8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の内部・外部改修工事等施設整備工事完成
10 月	国の施策による被爆者の大腸がん検診を開始
11 月	老人保健法による大腸がん検診を開始
平成 5 年 4 月	被爆者・老人保健法の安佐南区・安佐北区の出張がん検診を開始
6 月	第 34 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
8 月	胃集検用 X 線撮影装置(デジタルラジオグラフィ)を更新整備
平成 6 年 4 月	事務局組織改正。2 課 1 室を 3 課 2 室制に改める。
5 月	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 を更新整備
9 月	自動血球計算装置搭載健康診断車(1 号車)を更新整備
平成 7 年 4 月	被爆者の骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
5 月	原爆被爆 50 周年記念特別講演会を開催
	第 36 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
6 月	内視鏡デジタルファイリングシステムを更新整備
8 月	CR 用 X 線透視撮影装置を更新整備
10 月	市民を対象とする骨粗鬆症検診を開始(広島市委託事業)
平成 8 年 7 月	CR 用 X 線透視撮影装置を更新整備
8 月	既設 MRI 装置をバージョンアップ
平成 9 年 4 月	市民を対象とするマンモグラフィによる乳がん検診を開始(広島市委託事業)
6 月	第 38 回「原子爆弾後障害研究会」を開催
7 月	X 線骨密度測定装置を更新整備
8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の浴室・浴槽等改修工事完成
平成 10 年 8 月	糖尿病予防対策事業を開始
	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の屋上陸屋根防水工事完成
	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000 及び心電図データマネジメントシステムを更新整備
10 月	C 型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)を開始(広島市委託事業)
平成 11 年 9 月	DR システム X 線テレビ装置を整備
平成 12 年 9 月	超音波診断装置を更新整備
平成 13 年 1 月	MRI 装置を更新整備
平成 14 年 3 月	デジタル超音波診断装置を更新整備
7 月	自動血球計算装置を更新整備
8 月	「原爆被爆者有福温泉療養研究所」の冷暖房設備改修工事完成
平成 15 年 4 月	市民のＣ型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)にＢ型肝炎ウイルス検査を追加(広島市委託事業)
7 月	内視鏡検査システムを更新整備
平成 16 年 1 月	乳房 X 線撮影装置を更新整備
	CRX 線画像診断のオンラインネットワークシステムを更新整備
4 月	第二次 CRX 線画像診断のオンラインネットワークシステムを整備
8 月	全自動血球計算装置搭載健診車を更新整備
平成 17 年 8 月	総合健診電算システムを更新整備
12 月	乳房Ｘ線撮影装置を整備

12 月	医用画像情報システムサーバーソフトウエアを拡張整備
平成 18 年 3 月	職業補導事業を廃止
4 月	マンモグラフィによる被爆者乳がん検診を開始
	老人保健法基本健康診査に生活機能評価を追加して実施
9 月	デジタルＸ線透視撮影装置更新整備
10 月	被爆者健診に対する基本健康診査(生活機能評価)の実施
12 月	全自動血球計算装置搭載健診車更新整備(１号車)
平成 19 年 1 月	Ｘ線骨密度測定装置更新整備
7 月	Ｘ線ＣＴ撮影装置整備
	車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」外壁・厨房等の施設改善工事完成
平成 20 年 5 月	特定健康診査・特定保健指導を開始(広島市委託事業)
8 月	超音波診断装置更新整備
11 月	MRI 装置のアップグレード整備
平成 21 年 2 月	医用画像情報システム更新整備
3 月	デジタル胃集検Ｘ線透視撮影装置更新整備

Ⅱ 組　　織

1 組 織 図



2 役 員・評 議 員

財団法人広島原爆障害対策協議会　役員名簿　　（平成 21 年 7 月 1 日現在）

役　職	氏　　名	職　　名
会長	真 田 幸 三	広島県医師会顧問
副会長	碓 井 静 照	広島県医師会長(碓井内科胃腸科医院長・高陽ニュータウン病院理事長)
副会長	平 松 恵 一	広島市医師会長(平松整形外科病院理事長)
常務理事	古 川 義 紀	医療法人社団古川医院長
常務理事	沢 近 紀 夫	広島市医師会代議員会副議長(沢近医院長)
常務理事	三 村 義 雄	広島市健康福祉局長
常務理事	木 下 吾 朗	広島原爆障害対策協議会事務局長
理事・参与	長 﨑 孝 太 郎	広島市医師会副会長(医療法人厚生堂長崎病院理事長)
理事・参与	・ 丸 尚 子	広島市健康福祉局保健部長
理事・参与	国 本 善 平	広島市健康福祉局原爆被害対策部長
理事・参与	榎 野 浜 子	広島原爆障害対策協議会健康科学館長
理事	迫 井 正 深	広島県健康福祉局長
理事	藤 田 博 之	広島市議会議長
理事	越 智 光 夫	広島大学病院長
理事	神 谷 研 二	広島大学原爆放射線医科学研究所長
理事	土 肥 博 雄	広島赤十字・原爆病院長
理事	桑 原 正 雄	県立広島病院長

役　職	氏　　名	職　　名
理事	大 庭　　治	広島市民病院長
理事	鎌 田 七 男	広島原爆被爆者援護事業団理事長
理事	横 山 行 男	医療法人横山胃腸科内科医院長
監事	島 本　　学	医療法人社団島本外科内科医院理事長
監事	日 域 大 陸	医療法人三和会おおうち病院長
監事	延 田 壮 一	広島市都市整備公社監事

財団法人広島原爆障害対策協議会　評議員名簿　　（平成 21 年 7 月 1 日現在）

氏　　名	職　　名
真 田 幸 三	広島県医師会顧問
碓 井 静 照	広島県医師会長(碓井内科胃腸科医院長・高陽ニュータウン病院理事長)
平 松 恵 一	広島市医師会長(平松整形外科病院理事長)
古 川 義 紀	医療法人社団古川医院長
沢 近 紀 夫	広島市医師会代議員会副議長(沢近医院長)
三 村 義 雄	広島市健康福祉局長
木 下 吾 朗	広島原爆障害対策協議会事務局長
藤 田 博 之	広島市議会議長
越 智 光 夫	広島大学病院長
神 谷 研 二	広島大学原爆放射線医科学研究所長
土 肥 博 雄	広島赤十字・原爆病院長
桑 原 正 雄	県立広島病院長
大 庭　　治	広島市民病院長
鎌 田 七 男	広島原爆被爆者援護事業団理事長
横 山 行 男	医療法人横山胃腸科内科医院長
糸 山 幸 一	広島県健康福祉局総務管理部長
中川日出男	日本赤十字社広島県支部事務局長
前 田 泰 則	広島県薬剤師会長
森 本 克 廣	広島市歯科医師会長

3　職　員

（平成21年7月1日現在，単位：人）

事　務　局		健康管理センター			健康増進センター			健 康 科 学 館	
職　種	人員	職　種		人員	職　種		人員	職　種	人員
事 務 局 長	1	医師	所　　長	1	医師	所　　長	(1)	館　　長	1
事 務 職 員	18		部　　長	(1)		部　　長	1	事 務 職 員	3
事 務 嘱 託	1		常 勤 医 師	5	看 護 師		1	栄 養 士 嘱 託	1
相　談　員	1		非 常 勤 医 師	20	栄　養　士		2	看 護 師 嘱 託	1
自 動 車 運 転 手	10		読 影 委 員	46	体 育 指 導 員		2	事 務 嘱 託	5
用　務　員	1	看 護 師		18	事 務 職 員		1		
		保 健 師		1					
		検 査 技 師		35					
		放 射 線 技 師		11					
		栄　養　士		1					
		事 務 職 員		22					
		看 護 師 嘱 託		2					
		事 務 嘱 託		3					
小　計	32	小　計		165	小　計		7	小　計	11
合　計									215

注）（ ）内は兼務職員数を示したものである。

Ⅲ 施　　設

広島市総合健康センターは、原爆被爆者を含めたすべての市民の健康をまもる拠点施設として、広島市と広島市医師会と本会の三者協力のもとに建設されたものであり、本会は、平成元年９月、この広島市総合健康センターの開館に伴い、国泰寺町の原爆被爆者福祉センターから移転した。

この敷地及び建物は広島市と広島市医師会がそれぞれ区分所有する合築施設であり、広島市が設置する施設は、「広島市健康づくりセンター」と称せられている。

本会は広島市が設置した「広島市健康づくりセンター」の管理運営を広島市から指定管理者の指定を受け、その業務を行っている。

１　所　在　地　　広島市中区千田町三丁目８番６号

２　敷　　地　　9,622.67 ㎡（広島市 5,122.67 ㎡、広島市医師会 4,500.00 ㎡）

３　建　　物　　鉄筋コンクリート造　地下１階、地上６階建　延べ 15,916.26 ㎡

利用区分	面　積
健康管理センター専用	3,179.01 ㎡
健康増進センター専用	253.37
事務局専用	1,000.42
健康科学館専用	2,442.13
広島市・原対協事業共用部分	2,749.61
広島市医師会専用	3,199.19
広島市・広島市医師会共用部分	3,092.53
合　計	**15,916.26**

４　事　業　費　　約 90 億円（広島市約 65 億円、広島市医師会約 25 億円）

Ⅳ　平成２１年度 事業計画

本協議会は、国・県・市の指導と協力を得て、広島市医師会並びに医師会員と密接な連携のもとに、平成 21 年度も引続き被爆者の健康管理事業の充実と福祉の増進を強力に推進する。

また、広島市からの委託による健康診査、健康診断等の事業について積極的に行うとともに、指定管理を受けた健康増進・健康教育の事業についても忠実に実施していく。

1　被爆者の健康管理事業
2　被爆者の健康管理に関する調査研究事業
3　被爆者の援護福祉事業
4　被爆者の健康診断事業
5　高齢者医療確保法等による健康診査事業
6　広島市健康づくりセンターの管理運営事業
7　放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

１　被爆者の健康管理事業

(1) 健康管理の推進

被爆者がん検診を積極的に推進するとともに、被爆者の高齢化に伴う諸状況を考慮し、特に次の事項に重点をおき、成果を期する。

ア　悪性新生物の早期発見

胃がん・肺がん・肝臓がん・甲状腺がん・乳がん・子宮がん・白血病・多発性骨髄腫・大腸がん等の早期発見に努め、広島大学医学部、同原爆放射線医科学研究所及び放射線影響研究所等の協力を得て、積極的にこれらの検索を実施する。

イ　生活習慣病の早期発見と指導

糖尿病・動脈硬化症・高血圧・虚血性心疾患等生活習慣病の増加傾向に対し、早期発見に努めるとともに、必要に応じて適切な保健指導及び栄養指導を行う。

(2) 健康診断医療機器等の整備

ア　医用画像情報システムビュワーを更新整備する。

イ　胸部間接用天井走行式Ｘ線一般撮影装置を更新整備する。

ウ　産婦人科検診台を更新整備する。

エ　多機能心電計を更新整備する。

(3) 被爆者健康管理資料の整備

ア　受診者に関する健診資料(カルテ・レントゲンフィルム・心電図所見等)を分類整理し、レントゲンフィルムは医用画像情報システムに、心電図は光ディスクへ収録して保存する。

イ　これら健康診断の実績、結果等の諸統計を作成するとともに、光ディスクや磁気テープとして保管し、調査研究資料の管理体制を整える。

２　被爆者の健康管理に関する調査研究事業

(1) 調査研究の実施

下記の調査研究を行い、その成果は「原子爆弾後障害研究会」をはじめ関係各学会等に発表するほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙に発表する。

ア「被爆者がん検診の意義に関する研究」(継続)

被爆者がん検診が開始(1988 年)されて以来、本会で発見される新しいがん患者が著しく増加してきており、がん検診の成果と考えられ、これらの成績を踏まえてがん検診の意義、より効率的な検診のあり方、精度管理について広島大学原爆放射線医科学研究所の放射線分子疫学研究分野と協力して広島県腫瘍登録データの活用等によって検討を行う。

イ「被曝と悪性腫瘍発生に関する研究」(継続)

広島大学医学部と同原爆放射線医科学研究所との共同研究によって被曝線量の推定を行い、がん発生率と被曝の関連を検討する。

ウ「被爆者の糖代謝に関する研究」(継続)

エ「肺がんに関する研究」(継続)

オ「加齢に関する研究」(継続)

虚血性心疾患、脳血管障害、骨粗鬆症変性性神経疾患、心理学的異常等の加齢関連疾患や病態について検討するとともに、各種の関連要因(血圧・コレステロール・喫煙・栄養状況等)や被曝状況との関連を検討する。

(2) 文献の収集

原子爆弾後障害に関する医学論文及び原爆関係図書等の資料を収集保存し、その活用を図る。また、原子爆弾後障害研究会講演集総索引を刊行するための作業を開始する。

(3) 原子爆弾後障害研究会の開催

６月７日、第 50 回原子爆弾後障害研究会を、広島国際会議場において開催する。

３　被爆者の援護福祉事業

(1) 被爆者相談の実施

被爆者の生活、健康及び医療についての相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ必要な指導及び援助を行う。

(2) 援護の実施

「原爆被爆者援護規程」に基づいて、被爆者の援護・福祉の増進を図る。

ア　生活困窮者に対する援護金支給　　イ　有福温泉療養者に対する交通費補助

ウ　被爆身体障害者等に対する見舞金支給　　エ　福祉用具貸与・購入費利用補助金

オ　その他必要と認める経費の一部補助

(3) 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営

原爆被爆者有福温泉療養研究所は、同運営協議会(会長江津市長)に運営を委託し、必要な支援を行うことにより、被爆者の福祉増進を図る。

また、被爆者の高齢化等による利用者の減少により利用料収入での運営が、困難となったため、引き続き運営費の補助を行い、被爆者の温泉療養を実施する。

４　被爆者の健康診断事業

(1) 健康診断の実施

被爆者の平均年齢が 75 歳と高齢化が進むなか、健康管理の一層の充実を期するため、健康診断体制の整備充実に努めるとともに、実施にあたっては、関係当局と連携のうえ受診率の向上を図る。

ア　被爆者が受診しやすいようにするため、地域特性や交通機関の状況等を総合的に検討し、健

診日数及び健診会場の適正化を図る。

イ　被爆者の受診機会を多くするため、引続き土曜・日曜健診を実施し、受診サービスに努める。

ウ　被爆者健康診断の受診を促進するため、関係当局と連携して各種広報による啓発活動を積極的に行う。

エ　被爆者二世健康診断を実施する。

オ　実施目標

一　般　検　査	27,600 件	精　密　検　査	29,100 件
胃 が ん 検 診	5,500 件	肺 が ん 検 診	12,100 件
子 宮 が ん 検 診	2,300 件	乳 が ん 検 診	2,600 件
多発性骨髄腫検診	18,500 件	大 腸 が ん 検 診	10,300 件
骨 粗 鬆 症 検 診	5,500 件		

5　高齢者医療確保法等による健康診査事業

(1) 高齢者医療確保法に基づく健康診査等の実施

高齢者医療確保法に基づく特定健康診査を、健康づくりセンター及び出張健診会場において実施する。

また、健診結果から生活習慣病のリスクに応じて階層化し、特定保健指導を実施するなど、広島市の主体的取組みに連携して受診者のニーズに合った健診及び保健指導を行い、受診率の向上を図る。

実施目標(広島市国保)

特定健康診査	17,000 件
特定保健指導(積極的支援)	25 件

(2) 健康増進法に基づくがん検診等の実施

健康増進法に基づく種々のがん検診等を、健康づくりセンター及び出張検診会場において実施し、広島市の主体的取組みに連携して、広島市民の健康保持に努める。

実施目標

胃 が ん 検 診	17,200 件	肺がん検診	20,500 件
子宮がん検診	8,700 件	乳がん検診	8,500 件
大腸がん検診	11,200 件	肝炎ウィルス検診	500 件
骨粗鬆症検診	1,300 件		

(3) 感染症予防法に基づく結核健康診断の実施

感染症予防法に基づく結核健康診断を、広島市の主体的取組みに連携して健康づくりセンター及び出張健診会場において実施し、健診による市民の健康管理を推進する。

実施目標　11,400 件

(4) 介護保険法に基づく生活機能評価の実施

実施目標	被　爆　者	12,600 件
	被爆者以外	9,900 件

(5) 後期高齢者に対する健康診査の実施

75 歳以上の後期高齢者に対する健康診査を、健康づくりセンター及び出張健診会場において実施する。

実施目標　2,100 件

(6) 健康管理資料の整備

受診者に関する健診資料(カルテ・レントゲンフィルム・心電図等)を整理し、保管する。また、カルテ保存システムによりカルテを記録・保存し、将来の活用に備える。

6　広島市健康づくりセンターの管理運営事業

(1)　広島市から指定管理者の指定を受けて、広島市健康づくりセンターの施設の維持管理を行う。

(2)　健康増進事業

医学的検査に加え、運動負荷テスト、体力測定、栄養調査等を実施し、その結果に基づく運動指導や栄養指導を行うことにより、市民の健康の維持・増進を助長する。また、スポーツ選手のメディカルチェックを実施し、広島市スポーツ協会等と連携を図りながら、競技力向上に資する。

実施目標　基本コース　1,450 件（うちスポーツ選手のメディカルチェック 100 件）
　　精密コース　2,180 件

(3)　健康教育事業

本格的な高齢社会を迎え、市民の健康に対する関心はますます高まってきている。時代の変化とともに多様化するニーズに対応できるよう、健康に関する最新情報をわかりやすく正確に提供するとともに、積極的に教育研修を実施し、日常における健康管理について正しい知識の普及を図る。

ア　健康科学展示施設の運営

(ｱ)　企画展開催　年 4 回　　(ｲ)　パネル展　年 11 回

イ　健康ライブラリーの運営

(ｱ)　図書及びビデオを利用した学習の場の提供
(ｲ)　健康情報提供システムによる健康情報の提供

ウ 健康に関する教育研修の実施

(ｱ)　主催による研修会　年 43 回
(ｲ)　パパママ育児スクール　年 34 回
(ｳ)　他の関係機関との共催による研修会　年 25 回

エ　ボランティア(ヘルスサポーター)の育成・活動

(ｱ)　ボランティア養成講座(６課程)　年 1 回
(ｲ)　ボランティア育成講座　年 2 回
(ｳ)　ボランティアの活動　年 385 回

(4) ファミリー・サポート・センターの運営

保護者の急な用事や残業の際の預かり、子育ての悩みなどに対応するため、ファミリー・サポート・センターを設置し、会員同士の子育てに関する相互援助活動を行うことにより、仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援機能の充実を図る。

(5) つどいの広場の運営

子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図る。

7　放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

(1) 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

被爆地広島における放射線医療の経験とその蓄積を広く世界各地の放射線被曝治療に役立てようと平成3年4月に発足した「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、協力する。

(2) 来日被爆者の健康相談・医療相談等の実施

国外に居住する被爆者が来日の際、健康診断及び医療相談を実施するとともに、被爆者手帳の取得に必要な手続きの相談にも応じるなど在外被爆者の援助を引続き行う。

収　支　予　算　総　括　表

平成２１年４月１日から平成２２年３月３１日まで

（単位：千円）

科　　目	一般会計	健康管理センター会計	被爆者援護福祉事業会計	健康増進・教育事業会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ　事業活動収支の部						
１．事業活動収入						
基本財産運用収入	1					1
特定資産運用収入	1,127	10,335				11,462
被爆者健康診断収入		851,960				851,960
健康増進法検診収入		258,180				258,180
特定健診・保健指導収入		112,131				112,131
介護保険法生活機能評価収入		50,820				50,820
結核住民健康診断収入		20,950				20,950
健康増進収入		14,294				14,294
受託収入				158,716		158,716
補助金収入				42,133		42,133
寄附金収入	1,000					1,000
雑収入	1,560	133,569				135,129
他会計からの繰入金収入	219,600		14,905		△ 234,505	0
事業活動収入計	223,288	1,452,239	14,905	200,849	△ 234,505	1,656,776
２．事業活動支出						
生活相談費支出	7,633					7,633
資料統計費支出	30,949					30,949
健康診断費支出		1,262,391				1,262,391
調査研究費支出	1,126	7,929				9,055
後障害研究会開催費支出	3,672					3,672
原爆被爆者対策費支出			14,905			14,905
健康増進費支出				83,172		83,172
健康教育費支出				102,580		102,580
ファミリーサポート・つどいの広場費支出				15,097		15,097
管理費支出	171,851	53,519				225,370
他会計への繰入金支出	14,905	219,600			△ 234,505	0
事業活動支出計	230,136	1,543,439	14,905	200,849	△ 234,505	1,754,824
事業活動収支差額	△ 6,848	△ 91,200	0	0	0	△ 98,048
Ⅱ　投資活動収支の部						
１．投資活動収入						
特定資産取崩収入	10,850	172,622				183,472
固定資産売却収入		2				2
投資活動収入計	10,850	172,624	0	0	0	183,474
２．投資活動支出						
特定資産取得支出	1,001	100,002				101,003
固定資産取得支出	1	42,622				42,623
投資活動支出計	1,002	142,624	0	0	0	143,626
投資活動収支差額	9,848	30,000	0	0	0	39,848
Ⅲ　予備費支出	3,000	20,000				23,000
当期収支差額	0	△ 81,200	0	0	0	△ 81,200
前期繰越収支差額	0	81,200	0	0	0	81,200
次期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0

２　予算の推移（当初）

（単位：千円）

区分／年度	一般会計	健康管理センター会計	援護福祉事業会計	健康増進・教育事業会計	医療施設機器整備事業会計	有福施設整備事業会計	調査研究事業会計
昭和 59	163,860	595,880	6,530	—	42,920	—	3,200
60	183,270	667,760	6,550	—	—	13,680	3,900
61	189,660	642,570	6,660	—	76,000	—	3,080
62	206,350	700,480	6,840	—	—	24,220	3,600
63	200,290	900,210	6,920	—	156,000	—	2,500
平成元	258,150	1,113,540	7,130	＊31,860	74,480	—	—
2	232,660	1,102,730	7,250	219,378	83,430	—	—
3	231,380	1,225,446	7,300	228,813	29,272	—	—
4	234,820	1,304,000	7,460	226,514	78,000	48,320	—
5	251,145	1,426,009	7,460	237,346	65,000	—	—
6	254,296	1,457,601	5,490	242,379	134,000	—	—
7	264,258	1,501,111	5,490	236,133	70,000	—	—
8	261,339	1,539,630	5,620	239,130	92,000	—	—
9	270,202	1,616,905	5,720	258,077	66,675	39,000	—
10	269,301	1,627,854	5,720	230,521	73,500	23,434	—
11	261,547	1,706,081	5,720	225,093	32,550	—	—
12	240,920	1,676,652	5,720	220,517	144,375	—	—
13	247,573	1,583,371	5,720	215,629	16,485	—	—
14	264,800	1,620,476	5,440	211,857	21,315	18,568	—
15	266,107	1,631,841	5,440	207,251	—	—	—
16	258,937	1,717,673	4,900	199,281	33,180	—	—
17	263,298	1,733,638	3,231	196,592	—	—	—
18	246,631	1,730,971	2,951	197,399	34,755	—	—
19	231,865	1,857,955	2,921	197,399	—	17,115	—
20	237,238	1,832,780	17,270	197,399	13,000	—	—
21	234,138	1,706,063	14,905	200,849	—	—	—

＊ 健康増進準備事務会計

Ⅵ　平成２０年度事業実績

１　健康診断事業

(1) 被爆者健康診断

ア 被爆者一般・精密検査の実施

原爆被爆者の健康管理のため、広島県・広島市及び島根県、大阪府、東京都、山口県の委託を受けて、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく原爆被爆者の健康診断を行っている。この健康診断は、広島市総合健康センター及び市内の各集会所、公民館等を会場とする出張健診会場(2 カ所)の 3 会場で実施しており、そのために健康診断班を 3 班(1 班約 14 名－医師を含む)編成している。

また、広島市総合健康センターで毎月第 1・第 3 日曜日の日曜健診を実施しているほか、年間 10 回日曜出張健診も実施している。被爆者一般・精密検査の年度別実施状況は表 1 のとおりである。

表１　一般・精密検査の年度別実施状況

（人，％）

年度	一般検査		精密検査実施件数（B）	精検受診率(B)/(A)(%)	一般及び精密検査延べ実施件数
	実施件数（A）	要精検者数			
昭和 36	20,949	－	3,818	18.2	24,767
37	57,090	－	10,730	18.8	67,820
＊ 38	60,005	－	10,818	18.0	70,823
39	70,672	－	14,691	20.8	85,363
40	70,634	－	14,135	20.0	84,769
＊ 41	75,751	－	13,648	18.0	89,399
42	78,372	23,087	15,453	19.7	93,825
43	84,459	26,056	14,595	17.3	99,054
＊ 44	94,427	27,894	15,352	16.3	109,779
45	89,890	36,988	26,761	29.8	116,651
46	93,001	40,868	31,771	34.2	124,772
＊ 47	111,119	51,433	42,300	38.1	153,419
48	101,612	48,393	38,024	37.4	139,636
49	112,068	50,713	42,871	38.3	154,939
＊ 50	113,852	52,996	45,437	39.9	159,289
51	109,040	51,559	44,652	41.0	153,692
52	107,000	53,453	49,959	46.7	156,959
＊ 53	109,531	54,948	50,785	46.4	160,316
54	104,928	61,201	58,273	55.5	163,201
55	100,788	56,415	53,404	53.0	154,192
＊ 56	100,289	57,168	54,360	54.2	154,649
57	94,857	57,692	55,137	58.1	149,994
58	91,003	60,524	58,999	64.8	150,002
＊ 59	90,495	65,715	64,863	71.7	155,358
60	91,336	68,221	67,177	73.5	158,513
61	87,533	67,361	66,511	76.0	154,044
＊ 62	87,372	67,439	66,659	76.3	154,031
63	82,107	63,024	62,883	76.6	144,990
平成元	76,987	59,818	60,461	78.5	137,448
＊ 2	73,429	58,652	59,539	81.1	132,968
3	68,285	55,675	57,705	84.5	125,990
4	63,771	53,925	55,561	87.1	119,332
＊ 5	60,666	56,596	58,567	96.5	119,233
6	55,979	54,270	56,860※	101.6※	112,839
7	54,275	53,702	56,145※	104.5※	110,420
＊ 8	52,175	52,541	54,967※	104.6※	107,142
9	49,876	49,797	51,917※	104.1※	101,793
10	47,229	47,210	49,467※	104.7※	96,696
＊ 11	45,168	45,156	47,154※	104.4※	92,322
12	43,121	43,114	45,019※	104.4※	88,140
13	40,614	40,607	42,191※	103.9※	82,805
14	39,269	39,268	41,440※	105.6※	80,709
15	38,432	38,432	40,607※	105.7※	79,039
16	35,588	35,584	37,198※	104.5※	72,786
17	33,997	33,995	35,996※	105.9※	69,993
18	33,086	33,084	34,603※	104.6※	67,689
19	30,639	30,637	32,659※	106.6※	62,920
20	29,043	29,040	30,319※	104.4※	59,692

＊　手帳更新年度

※　精密検査受診者数が一般検査受診者数より多いのは、一般検査を他の医療機関で受診し、精密検査のみ当所で実施した人数を含んでいるためである。

イ 平成 20 年度被爆者一般・精密検査実施状況

平成 20 年度の一般検査の受診者数は 29,043 人、精密検査の受診者は 29,040 人であった。詳細は以下のとおりである。

(ｱ) 一般検査

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの 1 年間の当施設及び延 476 回の出張健診会場での一般検査受診者延数は表 2a･bのとおり、男性 12,430 人、女性 16,613 人、計 29,043 人で、前年度との比較では 1,596 人（男性 613 人、女性 983 人）の減少である。年齢構成は、男性、女性とも 70 歳代がピークとなっている。平均年齢±標準偏差は男性 73.2±6.8 歳、女性 74.4±7.5 歳、全体では 73.9±7.2 歳である。健診会場別に受診者をみると、施設は 10,211 人（35.2%）、出張健診会場は 18,832 人（64.8%）であり、前年度に比し、施設健診は 677 人の減少、出張健診は 919 人の減少である。

出張健診の区別の受診状況は表 2cに示すように、受診率は安芸区が 23.8%と最も高く、ついで安佐北区 18.4%、佐伯区 17.3%であり、全体では 14.0%である。

表 2 原爆 一般検査

a 受診者数 （単位：人，%）

年齢（歳）	男性		女性		計	
	受診者数	構成比	受診者数	構成比	受診者数	構成比
61～69	4,283	34.4	5,193	31.3	9,476	32.6
70～79	5,976	48.1	6,985	42.0	12,961	44.6
80～103	2,171	17.5	4,435	26.7	6,606	22.8
計	12,430	100.0	16,613	100.0	29,043	100.0

b 健診会場別実施状況 （単位：人，）

区分	平成 20 年度(A)		平成 19 年度(B)		比較増減(A)－(B)	
	日数	受診者数	日数	受診者数	日数	受診者数
施設健診	316	10,211	317	10,888	△ 1	△ 677
出張健診	476	18,832	483	19,751	△ 7	△ 919
計	792	29,043	800	30,639	△ 8	△ 1,596

c 出張健診区別実施状況 （単位：日，人，%）

区分	平成 20 年度(A)				平成19 年度(B)				比較増減(A)－(B)		
	日数	被爆者数	受診者数	受診率	日数	被爆者数	受診者数	受診率	日数	被爆者数	受診者数
中区	33	12,843	1,037	8.1	31	13,788	1,125	8.2	2	△ 945	△ 88
南区	74	20,363	2,530	12.4	78	21,224	2,669	12.6	△ 4	△ 861	△ 139
西区	77	25,337	2,654	10.5	81	26,508	2,845	10.7	△ 4	△ 1,171	△ 191
東区	60	14,825	2,151	14.5	61	15,476	2,272	14.7	△ 1	△ 651	△ 121
安芸区	28	6,494	1,543	23.8	26	6,489	1,430	22.0	2	5	113
安佐南区	70	23,994	3,368	14.0	71	24,758	3,601	14.5	△ 1	△ 764	△ 233
安佐北区	67	17,255	3,174	18.4	67	17,989	3,239	18.0	0	△ 734	△ 65
佐伯区	67	13,752	2,375	17.3	68	14,822	2,570	17.3	△ 1	△ 1,070	△ 195
計	476	134,863	18,832	14.0	483	141,054	19,751	14.0	△ 7	△ 6,191	△ 919

（被爆者数は年間の延べ健診通知数）

d　要精検率　　（単位：人，%）

年齢（歳）	男性			女性			計		
	受診者数	要精密検査		受診者数	要精密検査		受診者数	要精密検査	
		受診者数	受診率		受診者数	受診率		受診者数	受診率
61～69	4,283	4,282	100.0	5,193	5,191	100.0	9,476	9,473	100.0
70～79	5,976	5,976	100.0	6,985	6,985	100.0	12,961	12,961	100.0
80～103	2,171	2,171	100.0	4,435	4,435	100.0	6,606	6,606	100.0
計	12,430	12,429	100.0	16,613	16,611	100.0	29,043	29,040	100.0

(ｲ)　精密検査

平成 20 年度の精密検査受診者延数は表 3a のとおり、男性 13,117 人、女性 17,202 人、計 30,319 人であり、前年度に比し男性は 198 人の減少、女性は 132 人の減少、全体では 330 人減少している。年齢別には一般検査と同様に男性、女性とも 70 歳代にピークがある。

要精検者に対する精検受診率は表 3b に示すように、男性 105.5%、女性 103.6%、計 104.4%といずれも 100%以上である。これは一般検査を他の医療機関で受診し、精密検査のみを当所で実施した人数を含んでいるためである。

一般検査受診者に対する精検受診率は表 3c に示すように、男性 105.5%、女性 103.5%、計 104.4%である。

精密検査受診者に対して実施した主な検査項目は表 3d に示すように、肝機能検査が最も多く、ついでリウマチ検査、血糖検査、白血球分類、心電図検査、Free T4 の順である。

精密検査の結果、何らかの疾病を有し、これに対して治療の必要なものを要治療者とし、経過観察、追加検査及び食生活指導の必要なものを要経過観察者として、これらの精密検査受診者に対する比率をみたのが表 3e･f である。要治療者については男女とも高血圧が最も多く、ついで男性では糖尿病、高コレステロール血症の順、女性では高コレステロール、糖尿病の順である。要経過観察者についてみると、男性では高血糖、高コレステロール血症、血尿の順に多くみられ、女性では、高血糖、血尿、高コレステロール血症の順である。

平成 20 年度に新たに発見された悪性新生物症例は表 3g に示すとおり全体で 134 例あり、このうち最も多いのは胃癌 27 例、ついで肺癌 26 例、多発性骨髄腫 22 例、乳癌 17 例、大腸癌 11 例、甲状腺癌 8 例である。被曝状況別には表 3h に示すように、2.0 ㎞以内の直接被爆者が 45 例、2.1 ㎞以上の直接被爆者が 46 例、入市･他が 44 例である。

表 3　原爆　精密検査

a 受診者数　　（単位：人，%）

年齢（歳）	男性		女性		計	
	受診者数	構成比	受診者数	構成比	受診者数	構成比
61～69	4,565	34.8	5,442	31.6	10,007	33.0
70～79	6,347	48.4	7,301	42.4	13,648	45.0
80～103	2,205	16.8	4,459	25.9	6,664	22.0
計	13,117	100.0	17,202	100.0	30,319	100.0

b　要精検者に対する精密検査受診率　（単位:人，%）

年齢（歳）	男性			女性			計		
	要精検者数	精検受診者		要精検者数	精検受診者		要精検者数	精検受診者	
		受診者数	受診率		受診者数	受診率		受診者数	受診率
61～69	4,282	4,565	106.6	5,191	5,442	104.8	9,473	10,007	105.6
70～79	5,976	6,347	106.2	6,985	7,301	104.5	12,961	13,648	105.3
80～103	2,171	2,205	101.6	4,435	4,459	100.5	6,606	6,664	100.9
計	12,429	13,117	1055	16,611	17,202	103.6	29,040	30,319	104.4

c　一般検査受診者に対する精密検査受診率　（単位:人，%）

年齢（歳）	男性			女性			計		
	一般検査受診者数	精検受診者		一般検査受診者数	精検受診者		一般検査受診者数	精検受診者	
		受診者数	受診率		受診者数	受診率		受診者数	受診率
61～69	4,283	4,565	106.6	5,193	5,442	104.8	9,476	10,007	105.6
70～79	5,976	6,347	106.2	6,985	7,301	104.5	12,961	13,648	105.3
80～103	2,171	2,205	101.6	4,435	4,459	100.5	6,606	6,664	100.9
計	12,430	13,117	105.5	16,613	17,202	103.5	29,043	30,319	104.4

d　精密検査における主な検査項目と実施件数　（単位:件）

検査項目	実施数	検査項目	実施数	検査項目	実施数
肝機能検査	30,208	尿沈査	2,402	腹部超音波検査	543
血糖検査	28,910	細胞診検査	39	心臓超音波検査	438
貧血検査	3,799	胸部レントゲン検査	2,099	甲状腺超音波検査	507
リウマチ(RF)検査	29,044	乳房撮影	420	頸動脈超音波検査	860
ブドウ糖負荷試験	1,521	骨塩定量	508	心電図	14,374
Ｆｒｅｅ　Ｔ３	792	ＭＲＩ	339	トレッドミル検査	47
Ｆｒｅｅ　Ｔ４	11,929	ＣＴ	688	スパイロメトリー検査	36
抗甲状腺抗体	2,346	胃内視鏡検査	790	ＣＡＶＩ	728
免疫グロブリン	721	大腸内視鏡検査	229	体脂肪率	1,631
白血球分類	27,036	眼底検査	1,786		

e 要治療者の疾病分類

疾病区分	病名	男性		女性		計	
		例　数	%	例　数	%	例　数	%
感染症	その他	4	0.03	5	0.03	12	0.04
悪性新生物	胃癌	15	1.14	10	0.50	25	0.79
	肺癌	15		5		20	
	多発性骨髄腫	3		1		4	
	結腸･直腸癌	10		7		17	
	乳癌	0		15		15	
	前立腺癌	42		0		42	
	膀胱癌	7		0		7	
	甲状腺癌	9		18		27	
	食道癌	2		0		2	
	その他	43		21		64	
良性新生物	その他	12	0.09	15	0.10	27	0.10
内分泌･代謝疾患	糖尿病	2,122	32.81	1,629	36.88	3,751	35.03
	甲状腺腫	1		9		10	
	甲状腺機能低下症	68		190		258	
	甲状腺機能亢進症	11		24		35	
	高コレステロール血症	1,187		3,179		4,366	
	高脂血症	223		186		409	
	痛風	422		104		526	
	その他	159		317		476	
血液疾患	貧血	283	2.70	419	3.14	702	2.94
	その他	62		61		123	
精神障害・神経感覚器疾患	パーキンソン	6	0.34	7	0.37	13	0.35
	白内障	11		18		29	
	その他	26		31		57	
循環器疾患	高血圧	4,413	39.19	5,700	40.54	10,113	39.92
	高血圧性心疾患	7		5		12	
	虚血性心疾患	304		236		540	
	その他の心疾患	219		209		428	
	脳血管障害	49		36		85	
	その他の循環器疾患	16		11		27	
呼吸器疾患	肺炎	5	0.41	4	0.28	9	0.34
	慢性気管支炎	1		0		1	
	喘息	12		25		37	
	肺気腫	16		3		19	
	肺線維症	2		0		2	
	その他	16		11		27	
消化器疾患	胃潰瘍	10	8.17	3	4.68	13	6.27
	十二指腸潰瘍	0		3		3	
	肝機能障害	1,003		692		1,695	
	その他	31		18		49	
泌尿・生殖器疾患	腎炎	163	9.25	102	3.43	265	6.08
	腎不全	31		15		46	
	腎機能低下症	132		93		225	
	尿路感染症	34		94		128	
	その他	822		221		1,043	
皮膚・筋骨格系疾患	リウマチ様関節炎	122	2.13	175	6.89	297	4.72
	骨粗鬆症	115		816		931	
	その他	35		63		98	
その他	その他	479	3.75	481	3.15	960	3.42
総被検者数		12,780		15,287		28,067	

f 要経過観察者の疾病分類

疾病区分	病名	男性		女性		計	
		例　数	%	例　数	%	例　数	%
感染症	陳旧性肺結核	4	0.03	6	0.04	10	0.03
	その他	3		4		7	
新生物	多発性骨髄腫	65	1.20	48	0.81	113	0.98
	その他の悪性新生物	36		21		57	
	胃ポリープ	62		51		113	
	その他の良性新生物	91		104		195	
内分泌・代謝疾患	耐糖能低下	365	17.76	258	19.87	623	18.96
	甲状腺腫	46		161		207	
	その他の内分泌疾患	64		195		259	
	高コレステロール血症	2,081		3,839		5,920	
	高脂血症	987		898		1,885	
	その他の代謝疾患	202		132		334	
血液疾患	貧血	945	4.58	807	2.95	1,752	3.66
	その他	21		8		29	
精神障害・神経感覚器疾患	精神障害 神経感覚器疾患	6	0.03	12	0.04	18	0.04
循環器疾患	高血圧	418	5.24	364	3.44	782	4.22
	高血圧性心疾患	4		5		9	
	虚血性心疾患	22		16		38	
	その他の心疾患	262		252		514	
	脳血管障害	70		65		135	
	その他の循環器疾患	329		248		577	
呼吸器疾患	喘息	1	1.19	0	0.63	1	0.87
	肺気腫	51		1		52	
	肺線維症	8		7		15	
	その他	191		165		356	
消化器疾患	胃炎	248	6.82	136	3.82	384	5.12
	肝機能障害	989		777		1,766	
	その他	202		140		342	
泌尿・生殖器疾患	腎炎	184	2.67	312	2.90	496	2.80
	その他	379		487		866	
皮膚・筋骨格系疾患	皮膚疾患	0	1.74	3	3.64	3	2.81
	リウマチ様関節炎	37		44		81	
	骨粗鬆症	316		934		1,250	
	その他の骨関節疾患	13		23		36	
その他	血尿	1,468	58.73	4,373	61.86	5,841	60.51
	蛋白尿	932		628		1,560	
	高血糖	4,870		5,393		10,263	
	尿糖	159		61		220	
	その他	4,956		6,614		11,570	
総被検者数		21,087		27,592		48,679	

g 当センターで発見した悪性新生物症例

No.	年齢	性別	被爆状況	病名
1	79	M	1.7km	胃癌（早期）
2	76	M	3.0km	胃癌（早期）
3	64	M	2.2km	胃癌（早期）
4	69	M	1.7km	胃癌（早期）
5	63	M	3.1km	胃癌（早期）
6	73	M	3.0km	胃癌（早期）
7	62	M	4号	胃癌（早期）
8	66	M	入市	胃癌（早期）
9	78	M	2.0km	胃癌（早期）
10	69	M	4.1km	胃癌（早期）
11	72	M	入市	胃癌（早期）
12	63	M	0.4km	胃癌（早期）
13	70	M	3号	胃癌（早期）
14	71	M	4.1km	胃癌（早期）
15	69	F	入市	胃癌（早期）
16	72	F	3号	胃癌（早期）
17	65	F	4.1km	胃癌（早期）
18	77	F	2.7km	胃癌（早期）
19	83	F	2.3km	胃癌（早期）
20	67	M	6.5km	胃癌（進行）
21	81	M	2.0km	胃癌（進行）
22	63	M	1.7km	胃癌（進行）
23	79	M	3.8km	胃癌（進行）
24	72	F	入市	胃癌（進行）
25	67	F	1.4km	胃癌（進行）
26	66	F	1.4km	胃癌（進行）
27	84	F	2.6km	胃ＧＩＳＴ
28	65	M	1.4km	肺癌
29	65	M	1.2km	肺癌
*30	88	M	1.8km	肺癌
31	79	M	2.0km	肺癌
32	80	M	2.5km	肺癌
33	72	M	2.0km	肺癌
34	83	M	入市	肺癌
35	62	M	3号	肺癌
36	81	M	1.6km	肺癌
37	79	M	4.1km	肺癌
38	66	M	入市	肺癌
39	80	F	入市	肺癌
40	77	F	2.0km	肺癌
41	88	F	2.0km	肺癌
42	67	F	入市	肺癌
43	87	F	2.0km	肺癌
44	87	F	入市	肺癌
45	87	F	4.1km	肺癌
46	80	F	2.5km	肺癌
47	75	F	3号	肺癌
*48	77	F	2.0km	肺癌
*49	77	F	2.0km	肺癌
50	90	F	2.3km	肺癌

No.	年齢	性別	被爆状況	病名
51	81	F	4.1km	肺癌
52	78	M	1.5km	大腸癌
*53	64	M	入市	結腸癌（早期）
*54	64	M	入市	結腸癌（早期）
55	76	M	3号	結腸癌
56	76	M	2.7km	直腸癌（進行）
57	71	M	入市	直腸癌（早期）
58	72	F	2.2km	大腸癌（早期）
59	67	F	1.7km	大腸癌（早期）
60	70	F	3号	直腸癌（早期）
61	64	F	2.5km	大腸癌（早期）
62	74	F	入市	大腸癌
63	84	M	3.0km	多発性骨髄腫
64	63	M	4.1km	多発性骨髄腫
65	77	M	1.5km	多発性骨髄腫
66	64	M	3.5km	多発性骨髄腫
67	65	M	4.0km	多発性骨髄腫
68	79	M	4.0km	多発性骨髄腫
69	69	M	入市	多発性骨髄腫
70	74	F	3号	多発性骨髄腫
71	79	F	入市	多発性骨髄腫
72	70	F	4.0km	多発性骨髄腫
73	62	F	4号	多発性骨髄腫
74	80	F	1.7km	多発性骨髄腫
75	76	F	3.5km	多発性骨髄腫
76	71	F	入市	多発性骨髄腫
77	63	F	3.0km	多発性骨髄腫
78	72	F	3号	多発性骨髄腫
79	74	F	3号	多発性骨髄腫
80	67	F	2.5km	多発性骨髄腫
81	76	F	4.0km	多発性骨髄腫
82	77	F	3.8km	多発性骨髄腫
83	69	F	1.2km	多発性骨髄腫
84	67	F	3.0km	多発性骨髄腫
85	67	F	入市	乳癌
86	69	F	2.0km	乳癌
87	78	F	2.7km	乳癌
88	72	F	入市	乳癌
89	63	F	2.3km	乳癌
90	67	F	1.5km	乳癌
91	77	F	3号	乳癌
92	76	F	3号	乳癌
93	68	F	5.0km	乳癌
94	72	F	1.2km	乳癌
95	70	F	1.5km	乳癌
96	67	F	3.0km	乳癌
97	78	F	4.0km	乳癌
98	80	F	1.3km	乳癌
99	80	F	4.0km	乳癌
100	81	F	2.5km	乳癌

No.	年齢	性別	被爆状況	病名
101	68	F	1.8km	乳癌
102	63	F	2.0km	甲状腺癌
103	66	F	2.3km	甲状腺癌
104	80	F	入市	甲状腺癌
105	76	F	3号	甲状腺癌
106	76	F	4.1km	甲状腺癌
107	68	F	2.0km	甲状腺癌
108	67	F	1.2km	甲状腺癌
109	78	F	2.3km	甲状腺癌
110	65	M	入市	前立腺癌
111	72	M	入市	前立腺癌
112	71	M	4.1km	前立腺癌
113	71	M	入市	膀胱癌
114	74	M	3号	膀胱癌
115	63	M	1.3km	膀胱癌
116	81	M	1.8km	膀胱癌
117	79	F	2.0km	膀胱癌

No.	年齢	性別	被爆状況	病名
118	75	M	入市	肝臓癌
119	65	M	1.5km	肝臓癌
120	85	M	1.7km	肝臓癌
121	76	M	2.5km	骨髄異形成性症候群
122	63	F	入市	骨髄増殖症候群
123	77	M	1.5km	十二指腸乳頭部癌
124	68	F	3号	十二指腸GIST
125	80	M	1.7km	食道癌
126	77	M	1.8km	食道癌（進行）
127	79	M	入市	食道癌（早期）
128	67	M	1.5km	膵臓癌
129	77	M	2.0km	膵臓癌
130	62	M	みなし	悪性リンパ腫
131	78	F	4.1km	皮膚癌
*132	88	M	1.8km	転移性肺癌
133	77	M	入市	転移性肺癌

*[No..30・No..132]は重複癌で同一症例
*[No..48・49][No..53・No..54]は同一症例

h　被爆状況にみた悪性新生物

性別	被爆状況	肺癌		大腸癌		胃癌		多発性骨髄腫		その他の癌		合計	
		例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
男性	2.0km 以内	7	58.3	1	16.7	6	33.3	1	14.3	10	50.0	25	39.7
	2.1km 以上	2	16.7	1	16.7	8	44.4	5	71.4	2	10.0	18	28.6
	入市・他	3	25.0	4	66.7	4	22.2	1	14.3	8	40.0	20	31.7
	計	12	100.0	6	100.0	18	100.0	7	100.0	20	100.0	63	100.0
女性	2.0km 以内	5	35.7	1	20.0	2	22.2	2	13.3	10	34.5	20	27.8
	2.1km 以上	4	28.6	2	40.0	4	44.4	7	46.7	11	37.9	28	38.9
	入市・他	5	35.7	2	40.0	3	33.3	6	40.0	8	27.6	24	33.3
	計	14	100.0	5	100.0	9	100.0	15	100.0	29	100.0	72	100.0
計	2.0km 以内	12	46.2	2	18.2	8	29.6	3	13.6	20	40.8	45	33.3
	2.1km 以上	6	23.1	3	27.3	12	44.4	12	54.5	13	26.5	46	34.1
	入市・他	8	30.8	6	54.5	7	25.9	7	31.8	16	32.7	44	32.6
	計	26	100.0	11	100.0	27	100.0	22	100.0	49	100.0	135	100.0

ウ 被爆者がん検診等の実施

被爆者がん検診(胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん・多発性骨髄腫)は、被爆者の高齢化に伴う健康不安の増大等に対し、健康不安を解消するとともに健康管理の充実を図るため、昭和63年度から原子爆弾被爆者の医療等に関する法律（平成7年、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に移行）に基づく被爆者健康診断の一環として導入されたものである。これは希望による健康診断2回のうち1回をがん検診として受診できることになっている。

平成 2 年度からは、胃がん・肺がん・乳がん・子宮がん検診を安佐南区、安佐北区及び安芸区を除く出張健診会場で実施し、平成 4 年度から安芸区、平成 5 年度から安佐南区、安佐北区の出張健診会場においても実施している。

また、平成 4 年度から大腸がん検診を実施し、平成 7 年度からは広島市の施策として骨粗鬆症検診を施設において実施している。

なお、平成18年度からは、乳がん検診に乳房Ｘ線検査（マンモグラフィ）が必須項目となった。

被爆者がん検診の推移は表 **4**、被爆者がん検診等の年度別実施状況は表 **5** のとおりである。

表 4　被爆者がん検診の推移

<table>
<tr><th>検診会場
検診</th><th>施設検診</th><th colspan="3">出　張　検　診</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td>中区・南区・西区・東区・佐伯区</td><td>安　芸　区</td><td>安佐南区
安佐北区</td></tr>
<tr><td>胃　が　ん　検　診</td><td rowspan="4">昭和 63 年 8 月～</td><td rowspan="4">平成 2 年 4 月～</td><td rowspan="4">平成 4 年 4 月～</td><td rowspan="4">平成 5 年 4 月～</td></tr>
<tr><td>肺　が　ん　検　診</td></tr>
<tr><td>乳　が　ん　検　診</td></tr>
<tr><td>子　宮　が　ん　検　診</td></tr>
<tr><td>多発性骨髄腫検診</td><td colspan="3">昭和 63 年 8 月～</td></tr>
<tr><td>大　腸　が　ん　検　診</td><td>平成 4 年 10 月～</td><td colspan="3">平成 4 年 10 月～</td></tr>
<tr><td>骨　粗　鬆　症　検　診</td><td>平成 7 年 4 月～</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表 5　被爆者がん検診等年度別実施状況　　（単位：件）

年　度	胃がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮がん検　診	多発性骨髄腫　検　診	大腸がん検　診	骨粗鬆症検　診
昭和 54	2,165						
55	4,388						
56	2,843						
57	4,979						
58	5,446						
59	5,079						
60	5,142						
61	5,024						
62	4,973	201					
63	5,255	6,442	961	897	40,027		
平成元	3,848	8,052	809	751	43,045		
2	6,415	10,579	2,468	2,277	40,060		
3	5,976	10,964	2,304	2,135	40,418	4,018	
4	6,702	12,107	2,736	2,466	41,521	19,535	
5	8,095	14,189	3,630	3,390	34,909	18,306	
6	7,754	15,999	3,343	3,130	37,600	16,812	
7	8,034	16,522	3,305	3,105	36,347	16,196	3,995
8	7,953	16,104	3,288	3,094	30,677	16,657	3,891
9	7,835	15,764	3,155	2,959	33,103	15,619	5,605
10	7,574	15,148	2,783	2,649	31,304	15,029	6,055
11	7,878	15,542	2,947	2,779	28,068	15,105	6,597
12	7,686	15,523	3,024	2,876	28,793	14,472	7,000
13	7,244	14,967	2,860	2,715	26,898	13,901	6,848
14	7,161	15,596	2,843	2,724	26,131	13,669	7,211
15	7,215	15,573	2,907	2,736	25,502	13,375	7,516
16	6,950	14,650	2,864	2,548	23,823	12,453	7,193
17	6,809	14,135	2,590	2,405	22,804	12,288	6,580
18	6,416	13,720	3,073	2,499	22,401	11,570	6,480
19	5,967	12,972	3,026	2,499	20,416	11,257	6,049
20	5,445	12,588	2,997	2,427	19,555	10,988	5,932

昭和 62 年度までの胃がん検診、肺がん検診及び平成 3 年度の大腸がん検診は、広島市独自の法外援護事業として広島市の委託を受けて実施したものであり、昭和 63 年度以降（大腸がん検診は平成 4 年度以降）は国の制度として、広島県、広島市及び島根県、大阪府、山口県、東京都の委託を受けて実施したものである。

エ 平成 20 年度被爆者がん検診等実施状況

平成 20 年度の被爆者がん検診等実施状況の詳細は以下のとおりである。

(ｱ)　胃がん検診

胃がん検診における受診者は表 **6a** のとおり、男性 2,879 人、女性 2,566 人、計 5,445 人であり、要精検率はそれぞれ 9.0%、5.7%、7.5%、精検実施率はそれぞれ 99.2%、98.0%、98.8%である。要精検率は女性に比し男性はやや高率であり、年齢別には、一定の傾向は見られなかった。精検実施者における精検結果は表 **6b** に示すように、有所見率は男性 8.51%、女性 5.26%、全体では 6.98%であり、男性が女性に比し高率である。所見の内訳では、胃炎が 3.56%と最も高率で、ついで、胃ポリープ 1.74%、胃潰瘍 1.14%の順である。

また、男性では胃炎、胃潰瘍、胃ポリープ（胃潰瘍と胃ポリープは同数）、女性では胃炎、胃ポリープ、胃潰瘍の順である。

今年度新たに発見された癌症例は全て胃癌で、表 **6c** に示すように男性では 16 例（0.56%）、女性は 8 例（0.31%）、計 24 例（0.44%）で、推定発見率はそれぞれ 0.56%、0.32%、0.45%で男性に高率である。被曝状況別の胃癌発見率は、近距離被爆群のほうが高い傾向にあった。

表 6　原爆　胃がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位:人）

年齢（歳）	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			%[1]		%[2]			%[1]		%[2]			%[1]		%[2]
60～69	1,258	114	9.1	112	98.2	1,087	49	4.5	48	98.0	2,345	163	7.0	160	98.2
70～79	1,340	116	8.7	116	100.0	1,095	74	6.8	72	97.3	2,435	190	7.8	188	98.9
80～101	281	29	10.3	29	100.0	384	24	6.3	24	100.0	665	53	8.0	53	100.0
計	2,879	259	9.0	257	99.2	2,566	147	5.7	144	98.0	5,445	406	7.5	401	98.8

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b　精検結果

（単位:人）

性	年齢（歳）	精検所見													有所見者数	
		がん		胃潰瘍		胃ポリープ		十二指腸潰瘍		胃炎		その他		正常		
		例数	%[1]	例数	%[1]	例数	%[1]	例数	%[1]	例数	%[1]	例数	%[1]		例数	%[1]
男性	60～69	9	0.72	23	1.83	22	1.75	6	0.48	53	4.21	24	1.91	7	105	8.35
	70～79	6	0.45	22	1.64	24	1.79	8	0.60	61	4.55	30	2.24	3	113	8.43
	80～93	1	0.36	5	1.78	4	1.42	0	0.00	15	5.34	12	4.27	2	27	9.61
	計	16	0.56	50	1.74	50	1.74	14	0.49	129	4.48	66	2.29	12	245	8.51
女性	60～69	3	0.28	3	0.28	19	1.75	0	0.00	22	2.02	7	0.64	4	44	4.05
	70～79	4	0.37	7	0.64	15	1.37	3	0.27	32	2.92	19	1.74	5	68	6.21
	80～93	1	0.26	2	0.52	11	2.86	0	0.00	11	2.86	5	1.30	1	23	5.99
	計	8	0.31	12	0.47	45	1.75	3	0.12	65	2.53	31	1.21	10	135	5.26
計	60～69	12	0.51	26	1.11	41	1.75	6	0.26	75	3.20	31	1.32	11	149	6.35
	70～79	10	0.41	29	1.19	39	1.60	11	0.45	93	3.82	49	2.01	8	181	7.43
	80～93	2	0.30	7	1.05	15	2.26	0	0.00	26	3.91	17	2.56	3	50	7.52
	計	24	0.44	62	1.14	95	1.74	17	0.31	194	3.56	97	1.78	22	380	6.98

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c　被曝状況別に見た胃癌発見率

（単位:人，%）

性	被曝状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃癌症例		
				%[1]		%[2]	例数	発見率[3]	推定発見率[4]
男性	2.0km以内直接被爆群	637	61	9.6	61	100.0	6	0.94	0.94
	2.1km以上直接被爆群	1,020	91	8.9	90	98.9	8	0.78	0.79
	入市・他群	1,222	107	8.8	106	99.1	2	0.16	0.17
	計	2,879	259	9.0	257	99.2	16	0.56	0.56
女性	2.0km以内直接被爆群	516	28	5.4	27	96.4	2	0.39	0.40
	2.1km以上直接被爆群	803	47	5.9	46	97.9	3	0.37	0.38
	入市・他群	1,247	72	5.8	71	98.6	3	0.24	0.24
	計	2,566	147	5.7	144	98.0	8	0.31	0.32
計	2.0km以内直接被爆群	1,153	89	7.7	88	98.9	8	0.69	0.70
	2.1km以上直接被爆群	1,823	138	7.6	136	98.6	11	0.60	0.61
	入市・他群	2,469	179	7.2	177	98.9	5	0.20	0.20
	計	5,445	406	7.5	401	98.8	24	0.44	0.45

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率:症例数/受診者数×100　　[4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(イ)　肺がん検診

肺がん検診の受診者は表 7a のとおり、男性 5,893 人、女性 6,695 人、計 12,588 人である。 要精検率は男性 2.8%、女性 3.0%、計 2.9%と女性に高く、加齢に伴って増加の傾向を認める。精

検実施率は男性 93.9%、女性 92.0%、全体では 92.8%である。精検結果は表 **7b** に示すように、有所見率は男性 2.46%、女性 2.58%、計 2.53%で、女性に高率で、加齢に伴って増加する傾向がみられる。所見の内訳では閉塞性肺疾患 0.20%、肺線維症 0.16%、がん 0.15%である。

今年度新たに発見された肺癌症例は表 **7c** に示す如くで、男性 9 例 (0.15%)、女性 10 例 (0.15%)、計 19 例 (0.15%) で、推定発見率はそれぞれ 0.16%、0.16%、0.16%である。被曝状況別の肺癌発見率には、一定の傾向は見られない。

表 7　原爆　肺がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位：人）

年齢（歳）	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]
60～69	2,310	57	2.5	55	96.5	2,408	59	2.5	56	94.9	4,718	116	2.5	111	95.7
70～79	2,821	76	2.7	70	92.1	2,841	74	2.6	70	94.6	5,662	150	2.6	140	93.3
80～101	762	31	4.1	29	93.5	1,446	66	4.6	57	86.4	2,208	97	4.4	86	88.7
計	5,893	164	2.8	154	93.9	6,695	199	3.0	183	92.0	12,588	363	2.9	337	92.8

[1] 要精検率：要精検者数/受診者数　　[2] 精検実施率：精検実施者数/要精検者数×100

b　精検結果

（単位：人）

性	年齢（歳）	精検所見																有所見者数	
		がん		肺結核		胸膜炎		閉塞性肺疾患		肺炎		肺線維症		その他		正常			
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]			例数	% [1]
男性	60～69	1	0.04	1	0.04	4	0.17	7	0.43	4	0.17	5	0.22	40	1.73	4		51	2.21
	70～79	3	0.11	0	0.00	5	0.18	9	0.37	4	0.14	6	0.21	61	2.16	4		66	2.34
	80～97	5	0.66	2	0.26	0	0.00	6	0.77	1	0.13	2	0.26	24	3.15	1		28	3.67
	計	9	0.15	3	0.05	9	0.15	22	0.46	9	0.15	13	0.22	125	2.12	9		145	2.46
女性	60～69	1	0.04	6	0.25	1	0.04	1	0.04	1	0.04	1	0.04	51	2.12	2		54	2.24
	70～79	2	0.07	2	0.07	1	0.04	2	0.07	2	0.07	3	0.11	69	2.43	5		65	2.29
	80～93	7	0.48	1	0.07	2	0.14	0	0.00	4	0.28	3	0.21	57	3.94	3		54	3.73
	計	10	0.15	9	0.13	4	0.06	3	0.04	7	0.10	7	0.10	177	2.64	10		173	2.58
計	60～69	2	0.04	7	0.15	5	0.11	8	0.17	5	0.11	6	0.13	91	1.93	6		105	2.23
	70～79	5	0.09	2	0.04	6	0.11	11	0.19	6	0.11	9	0.16	130	2.30	9		131	2.31
	80～97	12	0.54	3	0.14	2	0.09	6	0.27	5	0.23	5	0.23	81	3.67	4		82	3.71
	計	19	0.15	12	0.10	13	0.10	25	0.20	16	0.13	20	0.16	302	2.40	19		318	2.53

[1] 所見率：所見例数/受診者数×100

c　被曝状況別に見た肺癌発見率

（単位：人,%）

性	被曝状況	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	肺癌症例 例数	発見率[3]	推定発見率[4]
男性	2.0km以内直接被爆群	1,382	40	2.9	37	92.5	6	0.43	0.47
	2.1km以上直接被爆群	2,074	59	2.8	56	94.9	1	0.05	0.05
	入市・他群	2,437	65	2.7	61	93.8	2	0.08	0.09
	計	5,893	164	2.8	154	93.9	9	0.15	0.16
女性	2.0km以内直接被爆群	1,553	54	3.5	50	92.6	4	0.26	0.28
	2.1km以上直接被爆群	2,200	64	2.9	57	89.1	3	0.14	0.15
	入市・他群	2,942	81	2.8	76	93.8	3	0.10	0.11
	計	6,695	199	3.0	183	92.0	10	0.15	0.16
計	2.0km以内直接被爆群	2,935	94	3.2	87	92.6	10	0.34	0.37
	2.1km以上直接被爆群	4,274	123	2.9	113	91.9	4	0.09	0.10
	入市・他群	5,379	146	2.7	137	93.8	5	0.09	0.10
	計	12,588	363	2.9	337	92.8	19	0.15	0.16

[1] 要精検率：要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率：精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率：症例数/受診者数×100　　[4] 推定発見率：発見率/精検実施率×100

(ｳ) 乳がん・子宮がん検診

乳がん検診の受診者数は表 8a のとおりで 2,997 人、子宮がん検診は 2,427 人である。要精検率は、乳がん検診が 7.0%、子宮がん検診が 0.3%である。また、精検実施率はそれぞれ 97.6%、100.%である。

表 8b にそれぞれの精検結果を示す。乳がん検診の有所見率は 4.64%で、若年者ほど高い傾向を認める。所見の内訳は乳腺症が 2.37%と最も多く、ついで線維腺腫 0.70%の順である。子宮がん検診の有所見率は 0.21%である。

今年度新たに発見された乳癌並びに子宮癌は表 8c に示す如くで、それぞれ 15 例 (0.50%)、及び 1 例 (0.04%) であり、推定発見率はそれぞれ 0.51%、0.04%である。また、被曝状況別には、乳癌発見率は近距離被曝群のほうが高い傾向にあったが、子宮癌発見率には一定の傾向は見られなかった。

表 8 原爆 乳がん・子宮がん

a 受診者数, 要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

	年齢(歳)	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]		年齢(歳)	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]
乳がん検診	60～69	1,437	101	7.0	100	99.0	子宮がん検診	60～69	1,199	3	0.3	3	100.0
	70～79	1,211	82	6.8	79	96.3		70～79	970	2	0.2	2	100.0
	80～98	349	26	7.4	25	96.2		80～98	258	3	1.2	3	100.0
	計	2,997	209	7.0	204	97.6		計	2,427	8	0.3	8	100.0

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100 [2] 精検実施率:精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

	年齢(歳)	精検所見								正常	有所見者数	
		がん		線維腺腫		乳腺症		その他				
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
乳がん検診	60～69	7	0.49	11	0.77	41	2.85	22	1.53	29	71	4.94
	70～79	5	0.41	8	0.66	23	1.90	24	1.98	25	54	4.46
	80～89	3	0.86	2	0.57	7	2.01	6	1.72	11	14	4.01
	計	15	0.50	21	0.70	71	2.37	52	1.74	65	139	4.64
	年齢(歳)	精検所見								正常	有所見者数	
		がん		中･高度異型上皮		軽度異型上皮		その他				
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
子宮がん検診	60～69	0	0.00	0	0.00	1	0.08	0	0.00	2	1	0.08
	70～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.21	0	2	0.21
	80～83	1	0.39	0	0.00	1	0.39	0	0.00	1	2	0.78
	計	1	0.04	0	0.00	2	0.08	2	0.08	3	5	0.21

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c 被曝状況別に見た乳癌・子宮癌発見率

(単位:人, %)

	被曝状況	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	乳癌症例		
							例数	発見率[3]	推定発見率[4]
乳がん検診	2.0km以内直接被爆群	637	40	6.3	40	100.0	5	0.78	0.78
	2.1km以上直接被爆群	978	65	6.6	65	100.0	6	0.61	0.61
	入 市・他 群	1,382	104	7.5	99	95.2	4	0.29	0.30
	計	2,997	209	7.0	204	97.6	15	0.50	0.51
	被曝状況	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	子宮癌症例		
							例数	発見率3	推定発見率4
子宮がん検診	2.0km以内直接被爆群	510	3	0.6	3	100.0	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	777	3	0.4	3	100.0	0	0.00	0.00
	入 市・他 群	1,140	2	0.2	2	100.0	1	0.09	0.09
	計	2,427	8	0.3	8	100.0	1	0.04	0.04

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100 [2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率:症例数/受診者数×100 [4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(I)　多発性骨髄腫検診

多発性骨髄腫検診の受診者は 19,555 人であり、その内訳は男性 8.220 人、女性 11,335 人で、要精検率はそれぞれ 4.1%、2.7%で全体では 3.3%である。また、精検実施率は 99.7%、99.7%、99.7%である（表 **9a**）。精検結果は表 **9b** のとおりで、有所見率は男性 2.54%、女性 1.34%、計 1.85%で、その内訳で最も多くみられるのは前骨髄腫 0.65%で、ついで良性 M 蛋白血症 0.49%、骨髄腫 0.48%、マクログロブリン血症 0.21%の順である。骨髄腫症例は男性 49 例（0.60%）、女性 45 例（0.40%）、計 94 例（0.48%）である。そのうち、今年度新たに発見された症例は、表 **9c** に示すように、男性 7 例(0.09%)、女性 15 例(0.13%)、計 22 例(0.11%)で、推定発見率はそれぞれ 0.09%、0.13%、0.11%である。被曝状況別の多発性骨髄腫発見率には、一定の傾向は見られない。

表 9　原爆　多発性骨髄腫検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位：人）

年齢（歳）	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]
60～69	2,993	83	2.8	82	98.8	3,709	74	2.0	74	100.0	6,702	157	2.3	156	99.4
70～79	3,938	169	4.3	169	100.0	4,725	127	2.7	127	100.0	8,663	296	3.4	296	100.0
80～103	1,289	82	6.4	82	100.0	2,901	109	3.8	108	99.1	4,190	191	4.6	190	99.5
計	8,220	334	4.1	333	99.7	11,335	310	2.7	309	99.7	19,555	644	3.3	642	99.7

[1] 要精検率：要精検者数／受診者数×100　　[2] 精検実施率：精検実施者数／要精検者数×100

b　精検結果

（単位：人）

性	年齢（歳）	精検所見									有所見者数	
		骨髄腫		前骨髄腫		マクログロブリン血症		良性M蛋白血症		M蛋白		
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	(−)	例数	% [1]
男性	60～69	13	0.43	15	0.50	10	0.33	15	0.50	28	53	1.77
	70～79	23	0.58	38	0.96	16	0.41	29	0.74	62	107	2.72
	80～97	13	1.01	18	1.40	9	0.70	9	0.70	33	49	3.80
	計	49	0.60	71	0.86	35	0.43	53	0.64	123	209	2.54
女性	60～69	11	0.30	9	0.24	2	0.05	9	0.24	43	31	0.84
	70～79	23	0.49	20	0.42	3	0.06	19	0.40	61	66	1.40
	80～95	11	0.38	28	0.97	2	0.07	14	0.48	53	55	1.90
	計	45	0.40	57	0.50	7	0.06	42	0.37	157	152	1.34
計	60～69	24	0.36	24	0.36	12	0.18	24	0.36	71	84	1.25
	70～79	46	0.53	58	0.67	19	0.22	48	0.55	123	173	2.00
	80～97	24	0.57	46	1.10	11	0.26	23	0.55	86	104	2.48
	計	94	0.48	128	0.65	42	0.21	95	0.49	280	361	1.85

[1] 所見率：所見例数／受診者数×100

c　被曝状況別に見た多発性骨髄腫発見率

（単位：人，%）

性	被曝状況	受診者数	要精検者数	% [2]	精検実施者数	% [3]	骨髄腫症例数	% [4]	新規骨髄腫症例[1] 例数	発見率[4]	推定発見率[5]
男性	2.0km以内直接被爆群	1,916	93	4.9	92	98.9	11	0.57	1	0.05	0.05
	2.1km以上直接被爆群	2,860	94	3.3	94	100.0	24	0.84	5	0.17	0.17
	入市・他群	3,444	147	4.3	147	100.0	14	0.41	1	0.03	0.03
	計	8,220	334	4.1	333	99.7	49	0.60	7	0.09	0.09
女性	2.0km以内直接被爆群	2,619	77	2.9	77	100.0	10	0.38	2	0.08	0.08
	2.1km以上直接被爆群	3,760	96	2.6	96	100.0	15	0.40	7	0.19	0.19
	入市・他群	4,956	137	2.8	136	99.3	20	0.40	6	0.12	0.12
	計	11,335	310	2.7	309	99.7	45	0.40	15	0.13	0.13
計	2.0km以内直接被爆群	4,535	170	3.7	169	99.4	21	0.46	3	0.07	0.07
	2.1km以上直接被爆群	6,620	190	2.9	190	100.0	39	0.59	12	0.18	0.18
	入市・他群	8,400	284	3.4	283	99.6	34	0.40	7	0.08	0.08
	計	19,555	644	3.3	642	99.7	94	0.48	22	0.11	0.11

[1] 今年度新たに発見された癌症例数　　[2] 要精検率：要精検者数／受診者×100

[3] 精検実施率：精検実施者数／要精検者数×100　　[4] 発見率：症例数／受診者数×100

[5] 推定発見率：発見率／精検実施率×100

(オ)　大腸がん検診

大腸がん検診の受診者の内訳は表 10aに示すとおり、男性 4,825 人、女性 6,163 人、計 10,988 人であり、要精検率はそれぞれ 6.3%、5.2%、5.7%である。精検実施率は、男性 60.7%、女性 61.0%全体で 60.8%である。精検結果は表 10bに示す如くで、最も多いのは腺腫 0.93%、ついで非腫瘍性ポリープ 0.79%、大腸癌 0.13%の順である。

今年度新たに発見された大腸癌症例は表 10cのとおり男性 7 例 (0.15%)、女性 7 例 (0.11%)、計 14 例 (0.13%)であり、推定発見率はそれぞれ 0.24%、0.19%、0.21%と男性に高率である。被曝状況別の大腸癌発見率は、近距離被曝群のほうが低い傾向にあった。

表 10　原爆　大腸がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢(歳)	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]
60～69	1,628	84	5.2	62	73.8	1,885	72	3.8	61	84.7	3,513	156	4.4	123	78.8
70～79	2,415	150	6.2	88	58.7	2,719	127	4.7	83	65.4	5,134	277	5.4	171	61.7
80～103	782	71	9.1	35	49.3	1,559	124	8.0	53	42.7	2,341	195	8.3	88	45.1
計	4,825	305	6.3	185	60.7	6,163	323	5.2	197	61.0	10,988	628	5.7	382	60.8

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b　精検結果

(単位:人)

性	年齢(歳)	精検所見									有所見者数	
		がん		腺腫		非腫瘍性ポリープ		その他		正常		
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
男性	60～69	1	0.06	23	1.41	12	0.74	14	0.86	20	42	2.58
	70～79	4	0.17	20	0.83	29	1.20	30	1.24	18	70	2.90
	80～94	2	0.26	6	0.77	10	1.28	17	2.17	6	29	3.71
	計	7	0.15	49	1.02	51	1.06	61	1.26	44	141	2.92
女性	60～69	3	0.16	17	0.90	5	0.27	15	0.80	26	35	1.86
	70～79	3	0.11	24	0.88	21	0.77	23	0.85	22	61	2.24
	80～100	1	0.06	12	0.77	10	0.64	26	1.67	11	42	2.69
	計	7	0.11	53	0.86	36	0.58	64	1.04	59	138	2.24
計	60～69	4	0.11	40	1.14	17	0.48	29	0.83	46	77	2.19
	70～79	7	0.14	44	0.86	50	0.97	53	1.03	40	131	2.55
	80～100	3	0.13	18	0.77	20	0.85	43	1.84	17	71	3.03
	計	14	0.13	102	0.93	87	0.79	125	1.14	103	279	2.54

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c　被曝状況別に見た大腸癌発見率

(単位:人, %)

性	被曝状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大腸癌症例		
				% [1]		% [2]	例数	発見率[3]	推定発見率[4]
男性	2.0km以内直接被爆群	1,060	74	7.0	44	59.5	0	0.00	0.00
	2.1km以上直接被爆群	1,606	82	5.1	43	52.4	1	0.06	0.12
	入市・他群	2,159	149	6.9	98	65.8	6	0.28	0.42
	計	4,825	305	6.3	185	60.7	7	0.15	0.24
女性	2.0km以内直接被爆群	1,330	86	6.5	44	51.2	1	0.08	0.15
	2.1km以上直接被爆群	1,956	99	5.1	64	64.6	2	0.10	0.16
	入市・他群	2,877	138	4.8	89	64.5	4	0.14	0.22
	計	6,163	323	5.2	197	61.0	7	0.11	0.19
計	2.0km以内直接被爆群	2,390	160	6.7	88	55.0	1	0.04	0.08
	2.1km以上直接被爆群	3,562	181	5.1	107	59.1	3	0.08	0.14
	入市・他群	5,036	287	5.7	187	65.2	10	0.20	0.30
	計	10,988	628	5.7	382	60.8	14	0.13	0.21

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率:症例数/受診者数×100　　[4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(カ) 骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、高齢化に伴う寝たきり被爆者が増加している現状に鑑み、その要因の一つである骨折を予防し、寝たきりを防止するために、広島市独自の施策として平成 7 年 4 月より実施されている。受診者の内訳は表 11aに示すとおりで男性 2,711 人、女性 3,221 人、計 5,932 人であり、女性における関心の高さが示されている。

「減少あり」と判定された有所見率は男性 14.5%、女性 48.6%である。女性は男性に比して高率であり、高度減少者の比率は、女性では高齢になるほど高い傾向がみられた。被曝状況別にみた結果を表 11bに示すが、男女とも被曝状況別には一定の傾向は認められない。

表 11　原爆　骨粗鬆症検診

a　受診者数および結果

（単位:人）

性	年齢（歳）	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				
				軽　度	中等度	高　度	計	% [1]
男性	60～69	1,120	953	32	91	44	167	14.9
	70～79	1,329	1,153	42	90	44	176	13.2
	80～97	262	211	8	28	15	51	19.5
	計	2,711	2,317	82	209	103	394	14.5
女性	60～69	1,381	761	72	308	240	620	44.9
	70～79	1,387	680	90	294	323	707	51.0
	80～98	453	214	26	92	121	239	52.8
	計	3,221	1,655	188	694	684	1,566	48.6
計	60～69	2,501	1,714	104	399	284	787	31.5
	70～79	2,716	1,833	132	384	367	883	32.5
	80～98	715	425	34	120	136	290	40.6
	計	5,932	3,972	270	903	787	1,960	33.0

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

b　被曝状況別に見た骨密度測定結果

（単位:人）

性	被曝状況	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				
				軽　度	中等度	高　度	計	% [1]
男性	2.0km以内直接被爆群	682	567	25	69	21	115	16.9
	2.1km以上直接被爆群	952	832	25	57	38	120	12.6
	入　市・他　群	1,077	918	32	83	44	159	14.8
	計	2,711	2,317	82	209	103	394	14.5
女性	2.0km以内直接被爆群	801	424	42	161	174	377	47.1
	2.1km以上直接被爆群	1,079	582	63	231	203	497	46.1
	入　市・他　群	1,341	649	83	302	307	692	51.6
	計	3,221	1,655	188	694	684	1,566	48.6
計	2.0km以内直接被爆群	1,483	991	67	230	195	492	33.2
	2.1km以上直接被爆群	2,031	1,414	88	288	241	617	30.4
	入　市・他　群	2,418	1,567	115	385	351	851	35.2
	計	5,932	3,972	270	903	787	1,960	33.0

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

オ　原爆被爆者二世健康診断の実施

原爆被爆者二世の健康面での不安を除く等のために、昭和 48 年度から、広島市の事業とし

て委託を受けて健康診断を開始し、昭和 54 年度からは、財団法人日本公衆衛生協会の事業（国が協会に委託している事業)、平成 13 年度からは国が広島県･広島市に委託している健康診断事業を実施している。

なお、平成 2 年度からは東京都の健康診断事業もあわせて委託を受けて行っている。

健康診断は、被爆者の場合と同様に一般検査と精密検査になっている。

原爆被爆者二世健康診断の実施状況は表 12 のとおりである。

表 12 原爆被爆者二世健康診断実施状況　　**（単位：件, %）**

年　度	一般検査	精密検査	精検実施率
昭和 48	578	580	100.3
49	109	110	100.9
50	82	83	101.2
51	51	51	100.0
52	131	129	98.5
53	124	126	101.6
54	1,942	1,768	91.0
55	1,041	626	60.1
56	854	494	57.8
57	995	572	57.5
58	1,152	663	57.6
59	1,551	853	55.0
60	1,798	1,072	59.6
61	1,967	1,155	58.7
62	2,250	1,314	58.4
63	2,780	1,551	55.8
平成元	2,417	1,161	48.0
2	2,078	1,127	54.2
3	2,132	1,219	57.2
4	2,309	1,520	65.8
5	2,508	1,610	64.2
6	2,297	1,698	73.9
7	2,391	1,936	81.0
8	2,475	2,138	86.4
9	2,867	2,309	80.5
10	2,786	2,796	100.4
11	3,201	3,202	100.0
12	3,711	3,711	100.0
13	3,762	3,762	100.0
14	2,919	2,919	100.0
15	3,150	3,150	100.0
16	2,483	2,483	100.0
17	2,678	2,678	100.0
18	2,497	2,497	100.0
19	2,477	2,477	100.0
20	2,428	2,428	100.0

(2) 高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等

ア　高齢者の医療の確保に関する法律等による健康診査等の実施

広島市総合健康センターへ移転した平成元年９月から、住民の健康管理を推進するため、広島市の委託を受け、高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健康診査、健康増進法に基づくがん検診、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく健康診断等を実施している。その概要は表 1、検査項目は表 2、実施状況は表 3 のとおりである。

表１　検診内容・検診区域の推移

検診会場 ＼ 検診項目	施設検診	出張検診			
		中区・南区・西区・東区・佐伯区	安芸区	安佐南区	安佐北区
老健法基本健康診査	元.9～20.3	2.4～20.3		10.4～20.3*	10.4～20.3*※
胃がん検診	元.9～	2.4～	4.4～	5.4～	
肺がん検診		8.4～			
乳がん検診		2.4～	4.4～	5.4～	
子宮がん検診					
大腸がん検診	4.11～	4.11～		10.4～*	10.4～*※
結核健診	元.9～	2.4～			
骨粗鬆症検診	7.10～				
マンモグラフィ検診	9.4～17.3				
C型･B型肝炎ウイルス検査	10.10～	10.10～		10.10～*	10.10～*※
特定健康診査・健康診査	20.5～	20.5～		20.5～*	20.5～*

「元.9～」は、平成元年９月から検診を開始したことを示す。
＊ 日曜検診のみ　※ 白木町は平成２年４月から 13 年３月まで。
平成 17 年度からは、乳がん検診に乳房Ｘ線検査（マンモグラフィ）が必須項目となった。

表２　健診種別及び検査項目（平成 20 年度）

種別		対象者（広島市内在住者）	検査項目
特定健康診査		40 歳以上 74 歳未満(被爆者含む)	必須検査：身体計測・腹囲測定・血圧測定・脂質検査・肝機能検査・血糖検査・尿検査・診察 選択検査：貧血検査・心電図・眼底検査（医師の判断により選択的に実施）
健康審査	医療保険未加入者	上記年齢者の医療保険未加入者	
	後期高齢者医療被保険者証の所持者	被爆者を除く原則 75 歳以上の者	身体計測・血圧測定・脂質検査・肝機能検査・血糖検査・尿検査・診察
がん検診	胃がん検診	40 歳以上の者	胃部 X 線撮影
	肺がん検診		胸部 X 線撮影(間接)、喀痰細胞診検査
	乳がん検診	40 歳以上の女性、2 年に 1 回	視診、触診、マンモグラフィによる画像診断
	子宮がん検診	20 歳以上の女性、2 年に 1 回	視診、内診、細胞診(頸部、体部)
	大腸がん検診	40 歳以上の者	便潜血二日法
結核健康診断		65 歳以上の者	胸部 X 線撮影(間接)
骨粗鬆症検診		女性：20 歳から 5 歳間隔の年齢の者 男性：40 歳から 5 歳間隔の年齢の者	骨塩定量検査(超音波方式)
C型・B型肝炎ウイルス検査（肝がん検診）	節目検診	40 歳の者	HCV 抗体検査＋HBs 抗原検査 (必要に応じて HCV 抗原検査、HCV 核酸同定検査を実施)
	未受診者検診	過去に肝炎ウイルス検診の対象者であって、受診の機会を逸した者	
	二次検診	20 年度は実施しない	

表 3　実施状況　　（単位：件）

年　度	基本健康診査		がん検診					結核定期健康診断	骨粗鬆症検診	ﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨ検診	C 型･B 型肝炎ｳｲﾙｽ検査
	必須検査	選択検査	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	大腸がん				
平成元	418	295	75	1	73	71	－	374	－	－	－
2	14,699	9,910	9,037	757	9,065	8,619	－	22,683	－	－	－
3	15,245	12,060	8,693	483	8,749	8,537	－	22,433	－	－	－
4	15,383	12,051	9,752	392	9,161	8,940	637	22,782	－	－	－
5	15,723	12,471	14,288	401	13,436	13,026	1,692	22,948	－	－	－
6	14,996	12,205	13,556	319	12,357	12,185	1,625	22,053	－	－	－
7	15,278	13,394	13,800	262	12,338	12,165	1,793	21,608	3,585	－	－
8	12,740	12,387	12,387	14,224	10,828	10,803	3,330	16,584	1,834	－	－
9	14,589	14,514	13,579	16,589	11,616	11,280	4,701	18,726	3,685	1,901	－
10	15,308	15,297	12,914	16,472	10,263	10,163	4,821	18,108	4,140	1,745	5,847
11	16,011	16,008	13,246	16,982	10,510	10,498	5,181	19,436	3,182	1,811	9,442
12	16,303	16,302	13,786	17,579	11,174	11,346	5,761	21,187	2,184	1,949	6,303
13	16,970	16,970	14,757	18,792	11,977	12,062	6,347	20,798	2,081	2,327	283
14	18,238	18,238	15,452	20,127	12,296	12,376	7,131	21,914	2,646	2,434	1,641
15	19,352	19,352	16,448	21,258	13,381	13,181	7,854	22,747	2,972	3,224	2,358
16	19,455	19,455	15,862	20,958	13,758	13,066	8,107	22,006	2,228	4,321	2,937
17	18,481	18,481	15,662	20,378	2,961	6,297	8,229	10,314	1,912		2,577
18	19,331	19,331	16,207	21,187	8,011	8,345	8,951	11,148	2,304		2,285
19	19,645	19,645	16,865	21,284	9,266	9,355	9,524	11,630	2,486		1,488
20	特定健康診査(注) 12,685		17,062	17,496	8,686	8,976	8,978	10,400	1,589		651

(注)特定健康診査は、医療保険未加入者の健康診査・後期高齢者の健康診査を含む。

イ 平成 20 年度健康診査実施状況

(7) 特定健康診査

平成 20 年度の特定健康診査の受診者数は、表 **4a** に示すように男性 5,294 人、女性 7,391 人、計 12,685 人であり、前年度に比し男性は 1,442 人、女性は 5,518 人、全体では 6,960 人の減少である。これは、平成 20 年 4 月は制度変更による体制準備のため、特定健康診査を受けられなかったことが大きい。年齢別にみると、男女とも 60 歳代がピークである。平均年齢±標準偏差は男性 66.7±10.0 歳、女性 65.5±8.7 歳、全体では 66.0±9.0 歳である。区別には南区が最も多く、ついで西区、佐伯区の順である（表 **4b**)。

表 4　特定健康診査

a　受診者数(被爆者 65 人含む)

（単位:人, %）

年齢（歳）	男性		女性		計	
	受診者数	構成比	受診者数	構成比	受診者数	構成比
39 ～ 49	444	8.4	458	6.2	902	7.1
50 ～ 59	522	9.9	1,005	13.6	1,527	12.0
60 ～ 69	2,016	38.1	3,417	46.2	5,433	42.8
70 ～ 79	1,935	36.6	2,258	30.6	4,193	33.1
80 ～ 96	377	7.1	253	3.4	630	5.0
計	5,294	100.0	7,391	100.0	12,685	100.0

b　区別にみた実施状況

（単位：人，%）

区分	男性		女性		計	
	受診者数	構成比	受診者数	構成比	受診者数	構成比
中　区	808	15.3	1,207	16.3	2,015	15.9
南　区	928	17.5	1,376	18.6	2,304	18.2
西　区	886	16.7	1,271	17.2	2,157	17.0
東　区	840	15.9	1,163	15.7	2,003	15.8
安芸区	212	4.0	278	3.8	490	3.9
安佐南区	433	8.2	560	7.6	993	7.8
安佐北区	321	6.1	382	5.2	703	5.5
佐伯区	866	16.4	1,154	15.6	2,020	15.9
計	5,294	100.0	7,391	100.0	12,685	100.0

(ｲ)　胃がん検診

胃がん検診の実施状況は表 **5a** に示すとおり、男性 6,676 人、女性 10,386 人、計 17,062 人であり、要精検率はそれぞれ 7.9%、5.2%、6.2%で女性に比し男性で高率の傾向がみられる。精検実施率は男性 77.9%、女性 85.3%、計 81.7%である。

精検実施者における精検結果は表 **5b** に示すように、有所見率は男性 5.77%、女性 3.77%、計 4.67%であり、男性が女性に比し高率である。

所見の内訳は、胃炎が 2.74%と最も多く、ついで胃ポリープ 1.38%、胃潰瘍 0.69%の順である。また、男女別の所見の内訳でも胃炎が最も多く、胃ポリープ、胃潰瘍の順であった。

今年度新たに発見された癌症例は表 **5c** に示すとおり男性で 24 例 (0.36%)、女性では 11 例 (0.11%)、計 35 例 (0.21%) であり、推定発見率は 0.46%、0.12%、0.25%と男性に高率である。検診状況別の推定発見率は施設検診 0.07%、集団検診 0.38%である。

表 5　胃がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位：人）

年齢（歳）	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			%[1]		%[2]			%[1]		%[2]			%[1]		%[2]
40～49	504	24	4.8	17	70.8	1,622	59	3.6	50	84.7	2,126	83	3.9	67	80.7
50～59	538	44	8.2	33	75.0	2,021	81	4.0	73	90.1	2,559	125	4.9	106	84.8
60～69	2,786	197	7.1	148	75.1	4,147	220	5.3	189	85.9	6,933	417	6.0	337	80.8
70～79	2,312	214	9.3	175	81.8	2,338	156	6.7	133	85.3	4,650	370	8.0	308	83.2
80～95	536	47	8.8	37	78.7	258	22	8.5	14	63.6	794	69	8.7	51	73.9
計	6,676	526	7.9	410	77.9	10,386	538	5.2	459	85.3	17,062	1,064	6.2	869	81.7

[1] 要精検率：要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率：精検実施数/要精検者数×100

b　精検結果

（単位：人）

性別	年齢（歳）	精検所見												正常	有所見者数	
		がん		胃潰瘍		胃ポリープ		十二指腸潰瘍		胃炎		その他				
		例数[1]	%[2]	例数	%[2]	例数	%[2]	例数	%[2]	例数	%[2]	例数	%[2]		例数	%[2]
男性	40～49	0	0.00	2	0.40	3	0.60	2	0.40	11	2.18	3	0.595	3	14	2.78
	50～59	1	0.19	11	2.04	6	1.12	7	1.30	15	2.79	3	0.558	1	32	5.95
	60～69	13	0.47	34	1.22	20	0.72	12	0.43	94	3.37	30	1.077	7	141	5.06
	70～79	8	0.35	30	1.30	43	1.86	15	0.65	98	4.24	33	1.427	11	164	7.09
	80～92	2	0.37	6	1.12	9	1.68	2	0.37	21	3.92	12	2.239	3	34	6.34
	計	24	0.36	83	1.24	81	1.21	38	0.57	239	3.58	81	1.213	25	385	5.77
女性	40～49	0	0.00	3	0.18	21	1.29	1	0.06	15	0.92	8	0.493	8	42	2.59
	50～59	1	0.05	7	0.35	27	1.34	4	0.20	32	1.58	14	0.693	6	67	3.32
	60～69	3	0.07	16	0.39	52	1.25	7	0.17	108	2.60	24	0.579	24	165	3.98
	70～79	6	0.26	7	0.30	50	2.14	6	0.26	68	2.91	22	0.941	9	124	5.30
	80～87	1	0.39	2	0.78	5	1.94	0	0.00	6	2.33	4	1.55	0	14	5.43
	計	11	0.11	35	0.34	155	1.49	18	0.17	229	2.20	72	0.693	47	412	3.97
計	40～49	0	0.00	5	0.24	24	1.13	3	0.14	26	1.22	11	0.517	11	56	2.63
	50～59	2	0.08	18	0.70	33	1.29	11	0.43	47	1.84	17	0.664	7	99	3.87
	60～69	16	0.23	50	0.72	72	1.04	19	0.27	202	2.91	54	0.779	31	306	4.41
	70～79	14	0.30	37	0.80	93	2.00	21	0.45	166	3.57	55	1.183	20	288	6.19
	80～92	3	0.38	8	1.01	14	1.76	2	0.25	27	3.40	16	2.015	3	48	6.05
	計	35	0.21	118	0.69	236	1.38	56	0.33	468	2.74	153	0.897	72	797	4.67

[1] 例数：胃癌(食道癌を含む)　　所見率：所見例数/受診者×100(食道癌を含む)

c　検診状況別に見た胃癌発見率

（単位：人，%）

性別	検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		胃癌症例		
				%[1]		%[2]	例数[3]	発見率[4]	推定発見率[5]
男性	施設検診	2,629	228	8.7	185	81.1	3	0.11	0.14
	集団検診	4,047	298	7.4	225	75.5	21	0.52	0.69
	計	6,676	526	7.9	410	77.9	24	0.36	0.46
女性	施設検診	4,326	209	4.8	184	88.0	1	0.02	0.03
	集団検診	6,060	329	5.4	275	83.6	10	0.17	0.20
	計	10,386	538	5.2	459	85.3	11	0.11	0.12
計	施設検診	6,955	437	6.3	369	84.4	4	0.06	0.07
	集団検診	10,107	627	6.2	500	79.7	31	0.31	0.38
	計	17,062	1,064	6.2	869	81.7	35	0.21	0.25

[1] 要精検率：要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率：精検実施者数/要精検者数×100

[3] 例数：胃癌(食道癌を含む)　　[4] 発見率：症例数/受診者数×100(食道癌を含む)

[5] 推定発見率：発見率/精検実施率×100(食道癌を含む)

(ｳ)　肺がん検診

肺がん検診の受診者数は表 **6a** に示すように、男性 6,950 人、女性 10,546 人、計 17,496 人で、要精検率はそれぞれ 3.2%、2.2%、2.6%、精検実施率はそれぞれ 78.7%、83.0%、80.9%である。

精検結果は表 **6b** のとおりで、有所見率は男性 1.74%、女性 1.13%、計 1.37%で、所見の内訳は多かった順に、胸膜炎 26 例 (0.15%)、閉塞性肺疾患 22 例 (0.13%)、肺結核 18 例 (0.10%)、肺線維症 13 例 (0.07%)である。

今年度新たに発見された肺癌症例は男性 6 例 (0.09%)、女性 6 例 (0.06%)、計 12 例 (0.07%)であり、推定発見率は表 **6c** に示すとおり0.11%、0.07%、0.08%である。検診状況別の推定発見率は施設検診 0.04%、集団検診 0.13%という結果である。

表 6　肺がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位:人）

年齢（歳）	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]
40～49	546	9	1.6	7	77.8	1,113	17	1.5	11	64.7	1,659	26	1.6	18	69.2
50～59	618	11	1.8	6	54.5	1,828	32	1.8	27	84.4	2,446	43	1.8	33	76.7
60～69	2,860	91	3.2	72	79.1	4,603	87	1.9	78	89.7	7,463	178	2.4	150	84.3
70～79	2,468	86	3.5	71	82.6	2,722	83	3.0	66	79.5	5,190	169	3.3	137	81.1
80～96	458	24	5.2	18	75.0	280	10	3.6	8	80.0	738	34	4.6	26	76.5
計	6,950	221	3.2	174	78.7	10,546	229	2.2	190	83.0	17,496	450	2.6	364	80.9

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施数/要精検者数×100

b　精検結果

（単位:人）

性	年齢（歳）	精検所見														正常	有所見者数	
		がん		肺結核		胸膜炎		閉塞性肺疾患		肺炎		肺線維症		その他				
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
男性	40～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.18	0	0.00	0	0.00	3	0.55	4	3	0.55
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	5	0.81	1	5	0.81
	60～69	1	0.03	4	0.14	10	0.35	10	0.35	0	0.00	1	0.03	41	1.43	19	52	1.82
	70～79	5	0.20	4	0.16	3	0.12	6	0.24	3	0.12	4	0.16	32	1.30	23	48	1.94
	80～90	0	0.00	2	0.44	4	0.87	1	0.22	1	0.22	2	0.44	7	1.53	5	13	2.84
	計	6	0.09	10	0.14	17	0.24	18	0.26	4	0.06	7	0.10	88	1.27	52	121	1.74
女性	40～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.18	0	0.00	3	0.27	6	5	0.45
	50～59	1	0.05	0	0.00	1	0.05	0	0.00	0	0.00	0	0.00	16	0.88	10	17	0.93
	60～69	1	0.02	5	0.11	3	0.07	3	0.07	0	0.00	1	0.02	44	0.96	30	48	1.04
	70～79	4	0.15	3	0.11	5	0.18	1	0.04	0	0.00	4	0.15	33	1.21	20	46	1.69
	80～88	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.36	2	0.71	5	3	1.07
	計	6	0.06	8	0.08	9	0.09	4	0.04	2	0.02	6	0.06	98	0.93	71	119	1.13
計	40～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.06	2	0.12	0	0.00	6	0.36	10	8	0.48
	50～59	1	0.04	0	0.00	1	0.04	0	0.00	0	0.00	0	0.00	21	0.86	11	22	0.90
	60～69	2	0.03	9	0.12	13	0.17	13	0.17	0	0.00	2	0.03	85	1.14	49	100	1.34
	70～79	9	0.17	7	0.13	8	0.15	7	0.13	3	0.06	8	0.15	65	1.25	43	94	1.81
	80～90	0	0.00	2	0.27	4	0.54	1	0.14	1	0.14	3	0.41	9	1.22	10	16	2.17
	計	12	0.07	18	0.10	26	0.15	22	0.13	6	0.03	13	0.07	186	1.06	123	240	1.37

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c　検診状況別に見た肺癌発見率

（単位:人, %）

性別	検診状況	受診者数	要精検者数	% [1]	精検実施者数	% [2]	肺癌症例 例数	発見率[3]	推定発見率[4]
男性	施設検診	3,169	85	2.7	65	76.5	1	0.03	0.04
	集団検診	3,781	136	3.6	109	80.1	5	0.13	0.16
	計	6,950	221	3.2	174	78.7	6	0.09	0.11
女性	施設検診	5,586	116	2.1	96	82.8	2	0.04	0.05
	集団検診	4,960	113	2.3	94	83.2	4	0.08	0.10
	計	10,546	229	2.2	190	83.0	6	0.06	0.07
計	施設検診	8,755	201	2.3	161	80.1	3	0.03	0.04
	集団検診	8,741	249	2.8	203	81.5	9	0.10	0.13
	計	17,496	450	2.6	364	80.9	12	0.07	0.08

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率:症例数/受診者数×100　　[4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(エ) 乳がん検診

乳がん検診は、平成 17 年 4 月より、問診、視診及び触診、乳房エックス線検査（マンモグラフィ）を 40 歳以上の対象者に 2 年に 1 回行うこととなった。表 7a に示すように、乳がん検診の受診者数は 8,686 人、要精検率 9.1%、精検実施率は 92.9%である。

精検結果を表 7b に示す。乳がん検診全体での有所見率は 5.35%で、内訳は乳腺症 2.64%、線維腺腫 0.66%、乳癌 0.59%である。今年度新たに発見された乳癌は 51 例、推定発見率は 0.63%である（表 7c)。検診状況別の推定発見率は施設検診 0.66%、集団検診 0.61%である。

表 7　乳がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位：人）

年齢（歳）	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% [1]		% [2]
40～49	1,991	255	12.8	236	92.5
50～59	1,994	174	8.7	163	93.7
60～69	3,081	227	7.4	214	94.3
70～79	1,499	118	7.9	108	91.5
80～97	121	13	10.7	10	76.9
計	8,686	787	9.1	731	92.9

[1] 要精検率：要精検者数/受診者数×100

[2] 精検実施率：精検実施者数/要精検者数×100

b　精検結果

（単位：人）

年齢（歳）	精検所見									有所見者数	
	がん		線維腺腫		乳腺症		その他		正常		
	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
40～49	8	0.40	31	1.56	93	4.67	65	3.26	58	178	8.94
50～59	13	0.65	10	0.50	51	2.56	28	1.40	65	98	4.91
60～69	20	0.65	14	0.45	59	1.91	34	1.10	89	125	4.06
70～79	10	0.67	2	0.13	24	1.60	25	1.67	49	59	3.94
80～85	0	0.00	0	0.00	2	1.65	3	2.48	5	5	4.13
計	51	0.59	57	0.66	229	2.64	155	1.78	266	465	5.35

[1] 所見率：所見例数/受診者数×100

c　検診状況別に見た乳癌発見率

（単位：人，%）

検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		乳癌症例		
			% [1]		% [2]	例数	発見率[3]	推定発見率[4]
施設検診	3,634	363	10.0	335	92.3	22	0.61	0.66
集団検診	5,052	424	8.4	396	93.4	29	0.57	0.61
計	8,686	787	9.1	731	92.9	51	0.59	0.63

[1] 要精検率：要精検者数/受診者数×100　[2] 精検実施率：精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率：症例数/受診者数×100　[4] 推定発見率：発見率/精検実施率×100

(オ)　子宮がん検診

表 8a に示すように、子宮がん検診の受診者は 8,976 人で、要精検率は 0.7%、精検実施率は 78.3%である。

精検結果を表 8b に示す。有所見率は 0.40%で、軽度異型上皮 0.14%、中・高度異型上皮 0.13%、子宮癌 0.06%である。今年度新たに発見された子宮癌は5例、推定発見率は0.06%である(表 8c)。検診状況別の推定発見率は、施設検診 0.10%、集団検診 0.05%である。

表 8　子宮がん検診

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢(歳)	受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% [1]		% [2]
20～29	360	9	2.5	9	100.0
30～39	1,608	19	1.2	12	63.2
40～49	1,560	12	0.8	9	75.0
50～59	1,559	9	0.6	8	88.9
60～69	2,547	8	0.3	6	75.0
70～79	1,251	2	0.2	2	100.0
80～86	91	1	1.1	1	100.0
計	8,976	60	0.7	47	78.3

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100

[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b　精検結果

(単位:人)

年齢(歳)	精検所見									有所見者数	
	がん		中・高度異型上皮		軽度異型上皮		その他		正常		
	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
26～29	0	0.00	4	1.11	1	0.28	1	0.28	3	6	1.67
30～39	1	0.06	3	0.19	4	0.25	2	0.12	2	10	0.62
40～49	2	0.13	2	0.13	3	0.19	1	0.06	1	8	0.51
50～59	1	0.06	2	0.13	4	0.26	0	0.00	1	7	0.45
60～69	1	0.04	1	0.04	1	0.04	2	0.08	1	5	0.20
70～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0	0.00
80～86	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0	0.00
計	5	0.06	12	0.13	13	0.14	6	0.07	11	36	0.40

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c　検診状況別に見た子宮癌発見率

(単位:人, %)

検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		子宮癌症例		
			% [1]		% [2]	例数	発見率[3]	推定発見率[4]
施設検診	3,242	15	0.5	14	93.3	3	0.09	0.10
集団検診	5,734	45	0.8	33	73.3	2	0.03	0.05
計	8,976	60	0.7	47	78.3	5	0.06	0.07

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率:症例数/受診者数×100　[4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(カ) 大腸がん検診

大腸がん検診の受診者の内訳は表 9a に示すとおり、男性 3,435 人、女性 5,543 人、計 8,978 人である。要精検率はそれぞれ 5.5%、3.1%、4.1%で、精検実施率は 69.5%、74.1%、71.7%である。

精検結果は表 9b に示す如く、有所見率は 2.06%で、内訳は、腺腫 0.81%、非腫瘍性ポリープ 0.70%、大腸癌 0.22%である。今年度新たに発見された大腸癌は 20 例で、推定発見率は 0.31%である(表 9c)。検診状況別の推定発見率は、施設検診 0.26%、集団検診 0.46%という結果である。

表 9 大腸がん検診

a 受診者数, 要精検者数および精検実施者数

(単位:人)

年齢(歳)	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			%[1]		%[2]			%[1]		%[2]			%[1]		%[2]
40～49	297	10	3.4	6	60.0	706	16	2.3	13	81.3	1,003	26	2.6	19	73.1
50～59	308	16	5.2	11	68.8	1,128	26	2.3	22	84.6	1,436	42	2.9	33	78.6
60～69	1,442	78	5.4	54	69.2	2,350	71	3.0	50	70.4	3,792	149	3.9	104	69.8
70～79	1,197	69	5.8	52	75.4	1,257	51	4.1	40	78.4	2,454	120	4.9	92	76.7
80～92	191	17	8.9	9	52.9	102	10	9.8	4	40.0	293	27	9.2	13	48.1
計	3,435	190	5.5	132	69.5	5,543	174	3.1	129	74.1	8,978	364	4.1	261	71.7

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施数/要精検者数×100

b 精検結果

(単位:人)

性	年齢(歳)	精検所見									有所見者数	
		がん		腺腫		非腫瘍性ポリープ		その他		正常		
		例数	%[1]	例数	%[1]	例数	%[1]	例数	%[1]		例数	%[1]
男性	40～49	0	0.00	1	0.34	0	0.00	1	0.34	4	2	0.67
	50～59	1	0.32	3	0.97	3	0.97	1	0.32	3	8	2.60
	60～69	10	0.69	17	1.18	13	0.90	9	0.62	16	38	2.64
	70～79	4	0.33	14	1.17	17	1.42	16	1.34	8	44	3.68
	80～86	2	1.05	2	1.05	4	2.09	2	1.05	1	8	4.19
	計	17	0.49	37	1.08	37	1.08	29	0.84	32	100	2.91
女性	40～49	0	0.00	3	0.42	2	0.28	1	0.14	7	6	0.85
	50～59	0	0.00	5	0.44	8	0.71	4	0.35	6	16	1.42
	60～69	1	0.04	16	0.68	6	0.26	11	0.47	17	32	1.36
	70～79	1	0.08	12	0.95	9	0.72	9	0.72	13	27	2.15
	80～82	1	0.98	0	0.00	1	0.98	4	3.92	0	4	3.92
	計	3	0.05	36	0.65	26	0.47	29	0.52	43	85	1.53
計	40～49	0	0.00	4	0.40	2	0.20	2	0.20	11	8	0.80
	50～59	1	0.07	8	0.56	11	0.77	5	0.35	9	24	1.67
	60～69	11	0.29	33	0.87	19	0.50	20	0.53	33	70	1.85
	70～79	5	0.20	26	1.06	26	1.06	25	1.02	21	71	2.89
	80～86	3	1.02	2	0.68	5	1.71	6	2.05	1	12	4.10
	計	20	0.22	73	0.81	63	0.70	58	0.65	75	185	2.06

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c 検診状況別に見た大腸癌発見率

(単位:人, %)

性	検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		大腸癌症例		
				%[1]		%[2]	例数	発見率[3]	推定発見率[4]
男性	施設検診	2,488	130	5.2	93	71.5	12	0.48	0.67
	集団検診	947	60	6.3	39	65.0	5	0.53	0.81
	計	3,435	190	5.5	132	69.5	17	0.49	0.71
女性	施設検診	4,181	120	2.9	93	77.5	1	0.02	0.03
	集団検診	1,362	54	4.0	36	66.7	2	0.15	0.22
	計	5,543	174	3.1	129	74.1	3	0.05	0.07
計	施設検診	6,669	250	3.7	186	74.4	13	0.19	0.26
	集団検診	2,309	114	4.9	75	65.8	7	0.30	0.46
	計	8,978	364	4.1	261	71.7	20	0.22	0.31

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100
[3] 発見率:症例数/受診者数×100　[4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

(ｷ)　C型・B型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)

平成18年度から、C型･B型肝炎ウイルス検査の対象者は40歳の方の節目検診、または輸血歴･手術歴のある者に変更された。

受診者数は表 10a のように、男性 202 人、女性 449 人、計 651 人である。C型･B肝炎ウイルス抗体（一次スクリーニング検査）陽性率（要精検率）は、男性 0.5%、女性 0.4%、計 0.5%である。要精検者の精検受診率は男性 0.0%、女性 100.0%、計 66.7%である。精検結果は表 10b のとおりで、有所見率は 0.31%であり、慢性肝炎が 1 名、その他が 1 名である。

表 10　C型・B型肝炎ウイルス検査(肝がん検診)

a　受診者数，要精検者数および精検実施者数

（単位:人）

年齢（歳）	男性					女性					計				
	受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数		受診者数	要精検者数		精検実施者数	
			% [1]		% [2]			% [1]		% [2]			% [1]		% [2]
40～49	53	1	1.9	0	0.0	122	0	0.0	0	0.0	175	1	0.6	0	0.0
50～59	29	0	0.0	0	0.0	135	1	0.7	1	100.0	164	1	0.6	1	100.0
60～69	79	0	0.0	0	0.0	135	1	0.7	1	100.0	214	1	0.5	1	100.0
70～79	40	0	0.0	0	0.0	56	0	0.0	0	0.0	96	0	0.0	0	0.0
80～83	1	0	0.0	0	0.0	1	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	0	0.0
計	202	1	0.5	0	0.0	449	2	0.4	2	100.0	651	3	0.5	2	66.7

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

b　精検結果

（単位:人）

性	年齢（歳）	精検所見													有所見者数	
		がん		急性肝炎		慢性肝炎		脂肪肝		肝硬変		その他		正常		
		例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]	例数	% [1]		例数	% [1]
男性	40～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	60～69	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	70～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	80～83	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	計	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
女性	40～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.74	0	1	0.74
	60～69	0	0.00	0	0.00	1	0.74	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	0.74
	70～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	80～83	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	計	0	0.00	0	0.00	1	0.22	0	0.00	0	0.00	1	0.22	0	2	0.45
計	40～49	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	50～59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.61	0	1	0.61
	60～69	0	0.00	0	0.00	1	0.47	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	1	0.47
	70～79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	80～83	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00
	計	0	0.00	0	0.00	1	0.15	0	0.00	0	0.00	1	0.15	0	2	0.31

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

c　検診状況別に見た肝癌発見率

（単位:人, %）

性	検診状況	受診者数	要精検者数		精検実施者数		肝癌症例		
				% [1]		% [2]	例数	発見率[3]	推定発見率[4]
男性	施設検診	136	1	0.7	0	0.0	0	0.00	0.00
	集団検診	66	0	0.0	0	0.0	0	0.00	0.00
	計	202	1	0.5	0	0.0	0	0.00	0.00
女性	施設検診	332	1	0.3	1	100.0	0	0.00	0.00
	集団検診	117	1	0.9	1	100.0	0	0.00	0.00
	計	449	2	0.4	2	100.0	0	0.00	0.00
計	施設検診	468	2	0.4	1	50.0	0	0.00	0.00
	集団検診	183	1	0.5	1	100.0	0	0.00	0.00
	計	651	3	0.5	2	66.7	0	0.00	0.00

[1] 要精検率:要精検者数/受診者数×100　　[2] 精検実施率:精検実施者数/要精検者数×100

[3] 発見率:症例数/受診者数×100　　[4] 推定発見率:発見率/精検実施率×100

高齢者の医療の確保に関する法律等の検診により、当センターで発見した悪性新生物症例について表 11 に示す。乳癌 52 例、大腸癌 20 例、肺癌 18 例、胃癌 9 例、子宮癌 5 例、その他 6 例である。

表 11　当センターで発見した悪性新生物症例

No.	年齢	性別	病名
1	53	M	胃癌（早期）
2	77	M	胃癌（早期）
3	68	M	胃癌（早期）
4	75	F	胃癌（早期）
5	76	F	胃癌（早期）
6	79	F	胃癌（早期）
7	61	M	胃癌（進行）
8	60	M	胃癌（進行）
9	77	M	胃癌（進行）
10	66	M	肺癌
11	65	M	肺癌
12	62	M	肺癌
13	70	M	肺癌
14	41	M	肺癌
15	71	M	肺癌
16	54	M	肺癌
17	82	M	肺癌
18	78	M	肺癌
19	62	F	肺癌
20	72	F	肺癌
21	66	F	肺癌
22	62	F	肺癌
23	73	F	肺癌
24	68	F	肺癌
25	66	F	肺癌
26	62	F	肺癌
27	71	F	肺癌
28	75	M	大腸癌
29	62	M	大腸癌
30	58	M	大腸癌
31	61	M	結腸癌
32	81	M	結腸癌
33	72	M	結腸癌（早期）
34	62	M	結腸癌（早期）
35	85	M	結腸癌（早期）
36	65	M	結腸癌（早期）
37	68	M	結腸癌（早期）
38	62	M	結腸癌（早期）
39	71	M	結腸癌（早期）
40	67	M	結腸癌（進行）
41	64	M	直腸癌（早期）
42	53	M	直腸癌（早期）
43	71	M	直腸癌（早期）
44	72	F	結腸癌
45	75	F	大腸癌
46	61	F	大腸癌（進行）
47	49	F	結腸癌（早期）
48	51	F	乳癌
49	64	F	乳癌
50	54	F	乳癌
51	60	F	乳癌
52	59	F	乳癌
53	70	F	乳癌
54	46	F	乳癌
55	47	F	乳癌
56	54	F	乳癌
57	77	F	乳癌
58	42	F	乳癌
59	64	F	乳癌
60	59	F	乳癌
61	44	F	乳癌
62	34	F	乳癌
63	50	F	乳癌
64	46	F	乳癌
65	55	F	乳癌
66	65	F	乳癌
67	41	F	乳癌
68	80	F	乳癌
69	53	F	乳癌
70	72	F	乳癌
71	75	F	乳癌
72	68	F	乳癌
73	61	F	乳癌
74	77	F	乳癌
75	61	F	乳癌
76	72	F	乳癌
77	65	F	乳癌
78	73	F	乳癌
79	53	F	乳癌
80	67	F	乳癌
81	65	F	乳癌
82	71	F	乳癌
83	42	F	乳癌
84	41	F	乳癌
85	44	F	乳癌
86	63	F	乳癌
87	75	F	乳癌
88	59	F	乳癌
89	55	F	乳癌
90	65	F	乳癌
91	51	F	乳癌
92	66	F	乳癌
93	69	F	乳癌
94	67	F	乳癌
95	70	F	乳癌
96	59	F	乳癌
97	65	F	乳癌
98	67	F	乳癌
99	75	F	乳癌
100	61	F	甲状腺癌
101	57	F	甲状腺癌
102	65	F	甲状腺癌
103	44	F	子宮頚癌
104	38	F	子宮頚癌
105	61	F	子宮頚癌
106	49	F	子宮頚癌
107	53	F	子宮体癌
108	74	M	前立腺癌
109	71	M	急性骨髄性白血病
110	76	M	腎細胞癌

(ｸ)　骨粗鬆症検診

骨粗鬆症検診は、寝たきりの主要な原因として骨折が大きな比重を占めている現状に鑑み、その最大原因としての骨粗鬆症を早期発見・早期予防するために広島市の独自の施策として平成 7 年 10 月より開始された（平成 16 年 4 月からの検診対象者は、男性では 40 歳以上、女性では 20 歳以上の 5 歳刻み)。

受診者の内訳は表 12 に示すとおりで、男性 447 人、女性 1,142 人、計 1,589 人であり、女性が多い。骨量の「減少あり」と判定された有所見率は、男性41.4%、女性48.3%、全体で46.4%と高率であり、骨粗鬆症と診断されている者、またその恐れがある者が多く受診しているためと考えられる。

表 12　骨粗鬆症検診

（単位:人）

性	年齢（歳）	受診者数	測定結果					
			減少なし	減少あり				
				軽　度	中等度	高　度	計	%[1]
男性	40・45	35	22	0	9	4	13	37.1
	50・55	25	19	0	2	4	6	24.0
	60・65	140	91	0	29	20	49	35.0
	70・75	204	109	0	58	37	95	46.6
	80～90	43	21	0	10	12	22	51.2
	計	447	262	0	108	77	185	41.4
女性	20・25	1	1	0	0	0	0	0.0
	30・35	9	9	0	0	0	0	0.0
	40・45	144	130	0	11	3	14	9.7
	50・55	199	148	0	35	16	51	25.6
	60・65	465	213	0	162	90	252	54.2
	70・75	299	86	0	90	123	213	71.2
	80･85	25	3	0	6	16	22	88.0
	計	1,142	590	0	304	248	552	48.3
計	20・25	1	1	0	0	0	0	0.0
	30・35	9	9	0	0	0	0	0.0
	40・45	179	152	0	20	7	27	15.1
	50・55	224	167	0	37	20	57	25.4
	60・65	605	304	0	191	110	301	49.8
	70・75	503	195	0	148	160	308	61.2
	80～90	68	24	0	16	28	44	64.7
	計	1,589	852	0	412	325	737	46.4

[1] 所見率:所見例数/受診者数×100

(ｹ)　結核健康診断

結核健康診断は、平成元年 9 月から広島市の委託を受けて開始した。

受診者数は表 13a のとおりで、男性 4,824 人、女性 5,576 人、計 10,400 人であり、年齢別には男性、女性とも 60、70 歳代にピークがみられる。区別の受診者数では、表 13b に示すように、安佐北区が最も多く、ついで安佐南区、南区の順である。要精検率は表 13c のとおり男性 3.7%、女性 2.6%、計 3.1%である。

表 13　結核健診

a　受診者数

年齢	男性		女性		計	
(歳)	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
22～39	19	0.4	21	0.4	40	0.4
40～49	10	0.2	0	0.0	10	0.1
50～59	9	0.2	7	0.1	16	0.2
60～69	1,839	38.1	2,504	44.9	4,343	41.8
70～79	2,482	51.5	2,734	49.0	5,216	50.2
80～96	465	9.6	310	5.6	775	7.5
計	4,824	100.0	5,576	100.0	10,400	100.0

b　区別にみた受診者数

区分	男性		女性		計	
	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
中区	463	11.2	694	15.4	1,157	11.1
南区	634	15.7	851	16.6	1,485	14.3
西区	554	13.2	732	13.8	1,286	12.4
東区	598	12.1	686	12.4	1,284	12.3
安芸区	456	8.9	435	7.5	891	8.6
安佐南区	753	13.2	768	11.7	1,521	14.6
安佐北区	778	13.5	759	11.7	1,537	14.8
佐伯区	588	12.2	651	10.8	1,239	11.9
計	4,824	100.0	5,576	100.0	10,400	100.0

c　要精検率

年齢	男性			女性			計		
	受診者数	要精密検査		受診者数	要精密検査		受診者数	要精密検査	
(歳)	(人)	人数(人)	%	(人)	人数(人)	%	(人)	人数(人)	%
22～39	19	0	0.0	21	0	0.0	40	0	0.0
40～49	10	0	0.0	0	0	0.0	10	0	0.0
50～59	9	0	0.0	7	0	0.0	16	0	0.0
60～69	1,839	66	3.6	2,504	46	1.8	4,343	112	2.6
70～79	2,482	86	3.5	2,734	85	3.1	5,216	171	3.3
80～96	465	27	5.8	310	13	4.2	775	40	5.2
	4,824	179	3.7	5,576	144	2.6	10,400	323	3.1

2　被爆者の健康管理に関する調査研究事業

(1) 調査研究の実施

下記の調査研究を行い、その成果は、「原子爆弾後障害研究会」をはじめ関係各学会等に 27 題を発表したほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙に発表した。

ア「被爆者がん検診の意義に関する研究」(継続)　イ「被曝と悪性腫瘍発生に関する研究」(継続)
ウ「被爆者の糖代謝に関する研究」(継続)　エ「肺がんに関する研究」(継続)
オ「加齢に関する研究」(継続)

(2) 被爆者健康診断資料の収集整理と活用

被爆者健康診断の受診者に関する資料（カルテ、心電図所見等）を分類整理・収納し、X線画像および心電図は電子化保存した。健康管理・増進センターでは、必要に応じてこれらの資料を被爆者の健康管理・健康指導に活用している。

また､健康診断に関する資料を引き続き電算処理し､基礎資料としての管理体制を整えている。

(3) 文献の収集

原爆関係図書「従軍看護婦の見た病院船・ヒロシマ」ほか 3 篇を収集した。

(4) 第 49 回原子爆弾後障害研究会への協力

第 49 回原子爆弾後障害研究会は、6 月 8 日(日)、長崎原爆資料館において開催された。研究会では、特別講演・シンポジウムのほか、一般演題 38 題が発表された。本会関係者は、一般演題 3 題を発表した。

[一般演題]

◇「原爆被爆者における生活機能評価の検討」　石 田　啓　ほか
◇ 「被爆者大腸がん検診 15 年の成績」　佐々木敦紀　ほか
◇ 「多発性骨髄腫検診による被爆者M－蛋白血症について」　藤 村 欣 吾　ほか

(5) 検診結果の統計処理

本会の実施する被爆者健康診断によって得られた被爆者の健康状態に関する各種の情報はコンピュータにより統計処理を行うとともに、データは磁気ディスク等に記録し保存している。平成 20 年度に実施した主な事項は次のとおりである。

ア 本会の実施した被爆者健康診断受診者の受診状況･疾病状況及び高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健康診査等に関する平成 20 年度の年間統計
イ 被爆者糖尿病追跡調査のための電算統計処理

３　被爆者の援護福祉事業

(1) 被爆者相談

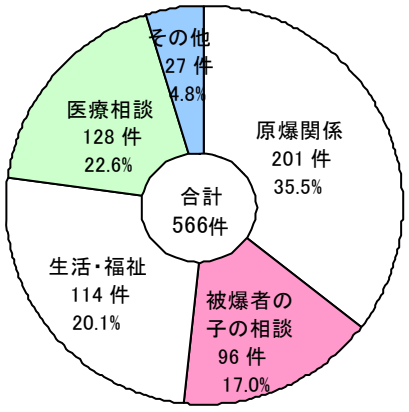
昭和 36 年、原爆被爆者福祉センター開設と同時に相談業務を開始したが、被爆者援護の積極的強化を図るため、昭和 42 年 7 月専任相談員を配置し、昭和 53 年 11 月には、来訪者の便宜を図って一階ロビーに相談コーナーを設置した。

開設以来の相談件数及び平成 20 年度の被爆者相談の状況は下表のとおりである。

開設以後の相談件数

年　度	件数（件）	年　度	件数（件）
昭和 36	51	昭和 60	3,283
37	29	61	3,086
38	19	62	3,454
39	30	63	5,333
40	46	平成元	4,530
41	68	2	4,074
42	240	3	4,183
43	334	4	3,525
44	465	5	3,451
45	626	6	3,482
46	910	7	3,512
47	626	8	3,576
48	507	9	3,393
49	568	10	3,758
50	871	11	2,911
51	1,241	12	3,414
52	1,746	13	2,817
53	2,566	14	2,572
54	3,174	15	2,522
55	2,319	16	2,455
56	3,676	17	2,084
57	3,057	18	576
58	2,852	19	625
59	2,660	20	566

平成 20 年度の被爆者相談の状況



※平成 18 年度から集計方法を変更し、電話による問い合わせ等簡易な相談については、相談件数に計上しないこととした。

(2) 被爆者の援護措置

本会の原爆被爆者援護規程に基づき、被爆者の生活及び健康上の相談に応じ、関係行政機関と連携のうえ、必要な指導及び援護の措置を講じている。

この財源は、全国から本会に寄せられる寄付金を基にして、次のとおり実施している。

ア 被 爆 者 援 護 金：被爆者の生活の維持向上を図るため、生活困窮者に月額 10,000 円を支給する。

イ 温泉療養交通費補助金：原爆被爆者有福温泉療養研究所で 6 泊 7 日以上療養した者に、交通費の一部として 1 回 1,000 円を支給する。

ウ 被爆身障者等見舞金：夏季と年末の年 2 回、被爆身体障害者福祉手当受給者、在宅高齢者福祉手当受給者、小頭症手当受給者、被爆者援護金受給者を対象に見舞金を贈って慰問する。

エ 福祉用具貸与・購入費補助：住民税非課税世帯の介護保険福祉用具利用者に補助金を支給する。

オ そ の 他 の 補 助：以上のほか特に援護の必要を認められる者に、その都度経費の一部を補助する。

平成 20 年度の援護費支給状況は下表のとおりである。

平成 20 年度援護費の支給内容

種　　別	人　　員（人）	支　給　額（円）
温泉療養交通費補助金	426	426,000
被爆身体障害者等見舞金	15	150,000
福祉用具貸与・購入費補助	143	1,398,000
合　　計	584	1,974,000

(3) 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営

昭和 42 年 6 月、厚生省のあっせんにより日本自転車振興会の公益事業補助金の交付を受け、広島市、島根県、江津市などの援助を受けて、原爆被爆者有福温泉療養研究所(有福温泉荘)を開設した。

現在は、原爆被爆者有福温泉療養研究所運営協議会(会長：江津市長)に運営を委託し、必要な助成を行って被爆者の福祉増進を図っている。

なお、泉質及び適応症は別表のとおりで、入湯療養の効果をおさめている。

ア　沿　革

昭和 42 年 6 月　日本自転車振興会等の補助金の交付を受け、「原爆被爆者有福温泉療養研究所」を開設

昭和 44 年 2 月　日本自転車振興会・広島県・広島市の補助金の交付を受け、暖房設備工事及び倉庫建設工事完成

昭和 45 年 5 月　2 階増改築工事完成

昭和 49 年 7 月　広島県・広島市の補助金の交付を受け、全館冷暖房設備工事完成

昭和 53 年 7 月　車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、食堂拡張工事等施設整備工事完成

昭和 56 年 10 月　広島県・広島市の補助金の交付を受け、屋根防水改修その他工事完成

昭和 60 年 8 月　広島県・広島市の補助金の交付を受け、車庫上屋根新設工事等完成

昭和 62 年 8 月　車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交代を受け、食堂拡張工事等施設整備工事完成

平成 4 年 8 月　車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、内部・外部改修工事等施設整備工事完成

平成 9 年 8 月　車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、浴室改修その他工事完成

平成 10 年 8 月　車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、屋上陸屋根防水工事その他の工事完成

平成 14 年 7 月　広島県・広島市の補助金の交付を受け、全館冷暖房設備工事完成

平成 19 年 7 月　車両競技公益資金記念財団・広島県・広島市の補助金の交付を受け、外壁・厨房等設備改修工事完成

イ　運　営　原爆被爆者有福温泉療養研究所運営協議会（江津市）

ウ　施　設

・所在地　島根県江津市有福温泉町 762 番地 4（〒695-0156，電話・FAX　0855-56-2148）
・敷　地　3,348.73 ㎡
・建　物　鉄筋コンクリート造　地下 1 階地上 2 階建　延 1,488.52 ㎡
　宿泊室(20 室)、浴室(2)、食堂、娯楽室、事務室、従業員室
・事業費　298,518 千円

（財源内容）	日本自転車振興会補助金	34,580 千円
	車両競技公益資金記念財団補助金	84,780 千円
	広島県補助金	50,942 千円
	広島市補助金	60,669 千円
	島根県補助金	2,000 千円
	江津市補助金	4,287 千円
	原対協負担金	59,150 千円
	その他寄付金	2,110 千円

・定　員　72 名

エ　申込手続き等

・広島原爆障害対策協議会または有福温泉荘で、利用する 4 ヶ月前から受付
・利用料金　宿泊（1 泊 3 食付）　被爆者　5,300 円　付添　6,500 円
・利用者には、バス運賃（広島電鉄）の割引証（2 割引）を交付する。

オ　泉質及び適応症

泉　　質	単純温泉	カルシウム（mg/kg）	10.78	硫　　酸（mg/kg）	18.59
泉　　温	46.5 度	ナトリウム（　〃　）	80.99	ヒドロ炭酸（　〃　）	86.32
Ｐ　　Ｈ	8.8	カリウム（　〃　）	3.48	炭　　酸（　〃　）	13.96
蒸発残留物	265.4	マグネシウム（　〃　）	1.77	メタ硅酸（　〃　）	67.07
ラ　ド　ン	0.14	クロール（　〃　）	66.04		

適　応　症	**慢性関節リウマチ、筋肉リウマチ、神経痛、神経炎、骨・関節運動器障害、外傷性障害の治療、疲労回復**

カ　年度別利用状況

年　度	男	女	計
昭和 43	1,025	1,477	2,502
44	1,299	1,665	2,964
45	1,195	1,867	3,062
46	1,176	1,884	3,060
47	1,304	2,069	3,373
48	1,361	2,036	3,397
49	1,206	2,100	3,306
50	1,332	2,258	3,590
51	1,214	2,280	3,494
52	1,400	2,536	3,936
53	1,284	2,372	3,656
54	1,376	2,436	3,812
55	1,473	2,623	4,096
56	1,483	2,839	4,322
57	1,513	2,890	4,403
58	1,403	2,679	4,082
59	1,351	2,867	4,218
60	1,316	2,919	4,235
61	1,294	2,997	4,291
62	1,166	2,761	3,927
63	1,263	2,828	4,091
平成元	1,244	2,997	4,241
2	1,253	2,992	4,245
3	1,170	3,074	4,244
4	1,080	2,808	3,888
5	1,173	3,179	4,352
6	1,232	3,211	4,443
7	1,230	3,281	4,511
8	1,216	3,318	4,534
9	990	2,989	3,979
10	1,231	3,239	4,470
11	1,262	3,264	4,526
12	1,263	3,230	4,493
13	1,101	2,585	3,686
14	1,157	2,640	3,797
15	1,253	2,516	3,769
16	1,339	2,488	3,827
17	1,328	2,390	3,718
18	1,130	2,061	3,191
19	1,025	2,033	3,058
20	1,019	1,891	2,910

キ　平成 20 年度の利用状況

性　別

性　別	実人員		延人員	
	人員（人）	比率（%）	人員（人）	比率（%）
男	1,019	35.0	3,536	31.0
女	1,891	65.0	7,883	69.0
計	2,910	100.0	11,419	100.0

年齢別

年　齢（歳）	実人員		延人員	
	人員（人）	比率（%）	人員（人）	比率（%）
～59	263	9.0	552	4.8
60～69	677	23.3	1,733	15.2
70～	1,970	67.7	9,134	80.0
計	2,910	100.0	11,419	100.0

地域別

地　域	実　人　員		延　人　員	
	人員（人）	比率（%）	人員（人）	比率（%）
広　島　市	1,917	65.9	7,652	67.0
広　島　県	755	25.9	3,006	26.3
その他(県外)	238	8.2	761	6.7
計	2,910	100.0	11,419	100.0

4　健康増進事業

(1) 事業の内容

生活習慣病などを予防し、積極的に健康づくりを推進するため、平成元年 9 月から広島市の委託を受け、また、平成 18 年度からは広島市から指定管理者の指定を受け健康増進事業を行っている。本事業では、市民が日常生活において自主的に健康の保持・増進ができるように医学検査・体力測定・運動負荷テストおよび栄養調査によって健康度を測定し、一人ひとりに適した運動、栄養、休養の処方を行っている。

さらに、広島市各区のスポーツセンターと共同で継続的な運動の実施のための方策(登録制)も行っており、効果を挙げている。平成 6 年度からは、広島県体育協会との連携により国体強化選手のメディカルチェックも実施している。また、平成 7 年度からは、健康増進コースを受診後 3～6 か月後に、運動、栄養の実践の効果判定を行いたい人を対象に、新たに「効果測定メニュー」を加えるなど、一層の充実を図っている。さらに「効果測定メニュー」を利用した健康教室を年数回にわたり開催して受診者数の増加に努めている。

(2) 検査項目

項　目	内　容		基本コース	精密コース	簡易メニュー A	簡易メニュー B	効果測定メニュー
問診	生活状況・健康状況・食生活状況		○	○	○	○	○
尿検査	糖・タンパク・ウロビリノーゲン・潜血		○	○		○	
血液一般検査	貧血などの検査	白血球・赤血球・ヘモグロビン・ヘマトクリット	○	○			
血液生化学	肝機能・高脂血症・尿酸及び糖尿病などの検査	GOT・GPT	○	○			
		総コレステロール・血糖					○
		HDL コレステロール・γ-GTP・ALP・CPK・総タンパク・尿酸		○			
		中性脂肪					○
胸部Ｘ線	直接撮影			○			
肺機能検査	肺活量・努力性肺活量・1 秒率		○	○	○	○	
眼底撮影	動脈硬化性・高血圧性変化			○			
血圧測定	安静時		○	○	○	○	○
身体計測	身長・体重・皮下脂肪厚・シルエッター撮影		○	○	○	○	○
心電図検査	安静時		○	○	○	○	
体力測定	握力・脚伸展パワー・全身反応時間など		○	○	○	○	○*
運動負荷テスト	トレッドミルまたはエルゴメーター		○	○	○	○	
指導	栄養指導・運動指導・総合指導		○	○	○	○	○

簡易メニューＡ：特定健康診査・人間ドック等の受診結果持参者向けメニュー
(希望受診日の概ね 3 か月以内に、特定健康診査や人間ドックで血液検査などの医学検査を受け、その結果に応じて一部検査を省略したメニュー)

簡易メニューＢ：広島市各区のスポーツセンターのトレーニング室利用(登録制)向けメニュー

＊　一部省略可能

(3) 実施状況

（単位：件）

年度	基本コース			精密コース			簡易コース			効果測定コース			合計
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	
平成元	30	33	63	42	31	73							136
2	37	75	112	231	132	363	199	186	385				860
3	55	63	118	674	324	998	403	298	701				1,817
4	116	84	200	1,041	610	1,651	560	438	998				2,849
5	134	107	241	1,128	697	1,825	484	451	935				3,001
6	167	91	258	1,224	775	1,999	658	410	1,068				3,325
7	151	71	222	1,039	599	1,638	663	461	1,124	6	41	47	3,031
8	157	112	269	1,038	522	1,560	634	461	1,095	14	38	52	2,976
9	124	94	218	1,083	558	1,641	555	438	993	17	85	102	2,954
10	112	87	199	1,054	589	1,643	532	400	932	13	64	77	2,851
11	102	85	187	1,261	970	2,231	488	354	842	0	0	0	3,260
12	83	81	164	1,072	560	1,632	525	362	887	6	9	15	2,698
13	59	50	109	1,001	564	1,565	500	332	832	57	77	134	2,640
14	51	51	102	1,134	574	1,708	471	379	850	32	93	125	2,785
15	77	49	126	1,060	631	1,691	505	327	832	18	17	35	2,684
16	62	32	94	1,168	600	1,768	508	340	848	8	25	33	2,743
17	42	30	72	1,153	572	1,725	489	312	801	6	25	31	2,629
18	56	32	88	1,140	573	1,713	467	265	732	43	48	91	2,624
19	52	44	96	1,138	607	1,745	467	290	757	11	15	26	2,624
20	57	59	116	1,149	722	1,871	518	364	882	105	71	176	3,045

(4) 平成 20 年度実施状況

平成 20 年度における健康増進事業のコース別・月別の利用者数は表 1 のとおりである。総受診者数は 3,045 名で、基本コース受診者は 116 名（男性 57 名、女性 59 名)、精密コース受診者は 1,871 名（男性 1,149 名、女性 722 名)、簡易メニュー受診者は 882 名（男性 518 名、女性 364 名)、効果測定メニュー受診者は 176 名（男性 105 名、女性 71 名）であった。

表1　健康増進事業　　（単位：人，日）

区分（実施日数）			4月 (16)	5月 (17)	6月 (21)	7月 (22)	8月 (19)	9月 (20)	10月 (22)	11月 (18)	12月 (19)	1月 (19)	2月 (19)	3月 (18)	計 (230)	月平均人数
受診者数			60	83	217	331	309	290	379	280	341	279	328	148	3,045	253.8
基本コース	受診者数		2	8	13	13	12	17	20	10	11	2	7	1	116	9.7
	性別	男性	1	6	10	8	6	8	7	1	3	0	6	1	57	4.8
		女性	1	2	3	5	6	9	13	9	8	2	1	0	59	4.9
精密コース	受診者数		34	46	149	231	194	188	246	199	192	154	174	64	1,871	155.9
	性別	男性	21	38	118	171	137	139	119	101	100	79	91	35	1,149	95.8
		女性	13	8	31	60	57	49	127	98	92	75	83	29	722	60.2
簡易コース	受診者数		24	29	55	81	95	80	102	65	129	108	98	16	882	73.5
	性別	男性	17	22	40	56	59	61	66	48	60	43	35	11	518	43.2
		女性	7	7	15	25	36	19	36	17	69	65	63	5	364	30.3
効果測定コース	受診者数		0	0	0	6	8	5	11	6	9	15	49	67	176	14.7
	性別	男性	0	0	0	6	8	5	11	6	9	15	13	32	105	8.8
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	35	71	5.9

受診者数の年次別推移は表 2 のごとくで、男女とも平成 11 年度をピークに、その後はほぼ横ばいの状態が続いていたが、平成 20 年度では男女とも大幅に増加し、平成 11 年度のピーク時にせまる受診者数となった。また、受診者数の推移を年齢別にみると、男女とも 10 代から 80 代までの幅広い年齢層に利用されており、平成 20 年度ではどの年代においても増加傾向がみられた。

表 2　平成 11 年度から平成 20 年度の年度別・年齢階別受診状況　　（単位：人）

性別	年度 / 年齢階級	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
男性	10代	15	24	48	24	42	53	62	57	49	49
	20代	160	142	115	123	109	82	65	60	69	87
	30代	372	353	340	357	367	376	370	359	333	311
	40代	693	629	552	586	546	588	553	530	517	576
	50代	453	392	395	417	425	481	481	517	538	583
	60代	112	103	125	134	122	117	116	123	119	165
	70代～	46	43	42	47	49	49	43	60	43	58
	計	1,851	1,686	1,617	1,688	1,660	1,746	1,690	1,706	1668	1,829
女性	10代	7	30	29	15	41	27	42	19	18	35
	20代	155	111	98	123	96	69	64	55	53	58
	30代	244	216	195	234	197	188	173	162	185	211
	40代	492	369	329	325	323	311	284	301	310	344
	50代	441	222	269	284	286	311	290	304	312	361
	60代	62	49	85	87	67	77	81	60	69	142
	70代～	8	15	18	29	14	14	5	17	9	65
	計	1,409	1,012	1,023	1,097	1,024	997	939	918	956	1,216

平成 20 年度の受診者の内訳を受診回数別にみると、図 1 の如くで、初回受診者は 715 名（男性 298 名、女性 417 名）であり、全体の 23.5%であった。2 回以上の受診者は 2,330 名（男性 1,531 名、女性 799 名）で全体の 76.5%を占めており、なかでも 10 回以上の受診者は 786 名（男性 569 名、女性 217 名）と長期にわたる継続受診者が全体の 25.8%と多数みられた。

今年度より内臓脂肪蓄積に着目した特定健診・特定保健指導が義務づけられた。メタボリックシンドロームが流行語になるなど市民全体にも健康に対する意識が向上しているように思われる。健康増進コースの受診者においても自分の生活習慣について振り返り、少しでもよい生活習慣が身につくように栄養指導や運動指導に熱心に耳を傾ける人が増えてきている。今後、この健康意識をさらに高めるために、受診者同士がお互いに情報交換を行うことができるような健康教室の開催など効果的な事業推進を行い、健康増進事業をより身近に感じることができるよう啓発活動をさらに積極的に行なっていきたい。また、セルフケアを促し、具体的な行動変容に結びつけられるよう、より効果的な支援をめざしていきたい。

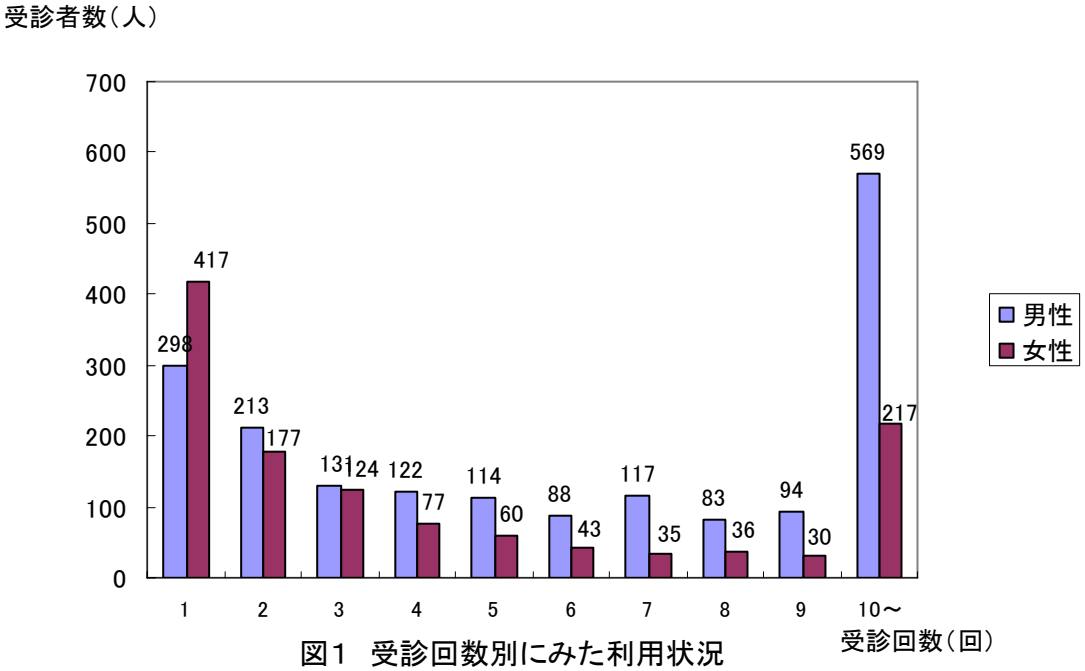


図1　受診回数別にみた利用状況

５　健康教育事業

健康に関する科学的知識の普及啓発を図るため、子供から高年齢者までの各年齢層に応じた様々な健康問題について、最新で正確な情報を分かりやすく提供することにより、日常における健康管理について正しい知識の普及に努めた。

(1) 健康科学展示施設の運営

人間のからだの仕組み、病気と健康、歯の健康等について子供から大人まで興味を持って学習できる拡大模型・映像・グラフィックパネル等の展示を行った。

ア　年間利用者数　　54,094 人

平成20年度 健康科学館利用状況　　（単位:人）

区　分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
観覧者数			2,942	3,901	5,108	6,509	9,038	5,076	4,435	4,121	2,801	2,874	3,400	3,889	54,094
	大人	（人）	1,538	1,969	2,758	3,313	4,046	2,499	2,141	1,944	1,541	1,543	1,866	2,057	27,215
	小人	（人）	403	517	687	982	1,935	825	964	723	453	426	368	438	8,721
	幼児	（人）	1,001	1,415	1,663	2,214	3,057	1,752	1,330	1,454	807	905	1,166	1,394	18,158
利用者数	ﾄｰﾀﾙﾍﾙｽｼｱﾀｰ	（人）	611	672	414	851	1,614	470	362	542	287	235	401	328	6,787
	上映回数	（回）	100	97	58	60	104	87	104	97	86	88	88	100	1,069
	研修会議室	（人）	507	815	1,646	3,293	6,160	1,057	1,167	1,151	891	681	726	1,259	19,353
	研修会	（回）	9	6	13	7	0	8	9	6	10	8	11	9	96
	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	（回）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ビデオ上映	（回）	0	4	10	1	0	9	12	11	3	3	7	7	67
	その他	（回）	3	6	1	13	27	2	3	5	4	2	0	5	71
	健康ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ	（人）	23	58	69	102	123	58	97	101	87	69	96	105	988
	つどいの広場	（人）	1,527	1,626	2,299	2,776	2,807	2,412	2,029	1,664	1,292	1,538	1,674	1,720	23,364
	大人	（人）	735	793	1,101	1,328	1,348	1,187	999	835	631	770	836	851	11,414
	幼児	（人）	792	833	1,198	1,448	1,459	1,225	1,030	829	661	768	838	869	11,950

※利用者数はそれぞれの機能ごとの利用者であり、館全体の利用者である観覧者数とは一致しない。

イ　企画展の開催　　年 4 回

企画展の観覧者数

名　称	期　間	日数	観覧者数(人)			
			大人	小人	幼児	合計
食卓へのメッセージ	平成20年3月1日～6月29日	75	3,543	1,596	1,256	6,395
遊ぼう！おもちゃの博物館	7月19日～10月26日	82	6,222	4,220	3,126	13,568
楽しく鍛えて脳力アップ	11月1日～2月22日	86	3,559	1,841	1,108	6,508
笑顔で元気展	平成21年3月1日～6月30日	25	1,159	428	525	2,112
合　計		268	14,483	8,085	6,015	28,583

※1　開催期間は20.3.1～6.29であるが、年度計とするためH20.4.1～6.29の集計となっている。
※2　開催期間はH21.3.1～6.30であるが、年度計とするためH21.3.1～3.31の集計となっている。
※3　つどいの広場のみ及びライブラリーのみの入館者は除いている。

ウ　パネル展　　年 12 回

(2) 健康ライブラリーの運営

健康に関する最新の健康情報を提供した。

(3) 健康に関する教育研修の実施

・主催による研修会　　（年 50 回）　　参加者 1,334 人
・パパとママの育児教室　　（年 34 回）　　参加者 2,084 人
・他の関係機関との共催による研修会　　（年 33 回）　　参加者 1,827 人

(4) ボランティア（ヘルスサポーター）の育成・活動事業

・ボランティアの養成事業　　（年 11 回）
・ボランティアの活動事業　　（年 434 回）

(5) 広報活動（TV・ラジオ取材等）　　開催数 40 回

(6) 展示物・資料等貸出　　29 回

(7) ファミリーサポートセンター事業

保護者の急な用事や残業の際の預かり、子育ての悩みなどに対応するため、ファミリー・サポート・センター（地域において子育ての援助活動を行う者と援助を受けたい者からなる会員組織）を設置し、会員同士の子育てに関する支援機能の充実を図った。

ア　会員の募集・登録など会員組織の管理運営
　会員数　1,757 人（提供会員：468 人　依頼会員：1,164 人　両方会員 125 人）
　【H21.3.31 現在】
イ　援助活動の調整
　マッチング件数　910 件　【H20.4.1～H21.3.31】
ウ　提供会員講習会（援助活動に必要な知識の普及）　（年 2 回　6 月、2 月）
エ　会員同士の交流（全体交流会　1 回）
　（各区交流会　2 回）
　【中区・東区・南区・安芸区、西区・佐伯区・安佐南区・安佐北区】
オ　会員講習会　　6 回
カ　機関誌の発行　　1回

(8) つどいの広場事業

子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を設置することにより、子育ての負担感の緩和や地域の子育て支援の充実を図った。

ア　常設のつどいの場の提供
イ　子育てに関する相談援助
ウ　子育て関連情報の提供
エ　子育て等に関する講習会の開催　　年 26 回

利用者数　23,364 人（大人 11,414 人　幼児 11,950 人）　　【H20.4.1～H21.3.31】

6　放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

(1) 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力

被爆地広島における放射線被曝者医療の経験とその蓄積を広く世界各地の放射線被曝者治療に役立てようと平成 3 年 4 月に発足した「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として、医師等の受入（平成 20 年度は、9 回にわたり 22 名の医師等の医療研修）を積極的に行った。

(2) 来日原爆被爆者の健康診断、医療相談等の実施

国外に居住する被爆者が来日の際、健康診断および医療相談等を実施するとともに、健康管理手当申請等の相談にも応じるなど、在外被爆者への援助を引き続き行った。

平成 20 年度実績　　（単位：人）

国　別	健康診断 受診者数	相談者数（延べ）
米　国	43	0
韓　国	0	0
その他	4	0
計	47	0

7　平成２０年研究業績

(1) 学会発表

第 19 回広島スポーツ医学研究会（2 月 2 日、広島市）

・入江三枝子、真鍋智恵、源内徳子、片山美和子、佐々木英夫：メタボリックシンドローム（MS）予防に効果的な運動量

第 38 回日本消化器がん検診学会中四国地方会(2 月 23 日～24 日、倉敷市)

・佐々木敦紀、渡邊敦子、井上典子、原田寿子、加藤博也、内藤久美子、吉良さくらこ、前田亮、佐々木英夫：原爆被爆者に対する大腸がん検診の成績

第 72 回日本循環器病学会総会・学術集会(3 月 28 日、福岡市)

・佐々木英夫：「予防医学・疫学」セッション座長

日本放射線技術学会第 64 回総会（4 月 3 日～5 日、横浜市）

・田村隆行：ゼラチンを用いた拡散強調画像用ファントムの検討
：ファントムを用いた拡散強調画像のコントラストの検討
：ファントムを用いた拡散強調画像での腫瘍の検出限界サイズの検討

・横町和志：検査センターにおける冠動脈狭窄スクリーニングの経験

第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会（5 月 22 日～24 日、東京都）

・吉良さくらこ、源内徳子、入江三枝子、原田寿子、前田亮、佐々木英夫、伊藤千賀子：糖尿病一次予防プログラムにおける指導目標設定についての検討―３年間の介入成績より―

・入江三枝子、源内徳子、吉良さくらこ、村上文代、伊藤千賀子、佐々木英夫：糖尿病の家族歴および生活習慣からみた空腹時血糖値（FPG）の比較

・源内徳子、真鍋智恵、片山美和子、入江三枝子、吉良さくらこ、村上文代、伊藤千賀子、佐々木英夫：メタボリックシンドローム（MS）に及ぼす食生活因子の検討

第 47 回日本消化器がん検診学会総会(5 月 30 日～31 日、福岡市)

・辰上雅名、吉原正治、伊藤公訓、北村正輔、高村明美、和田慶洋、今川しのぶ、松本善明、高田俊介、佐々木敦紀、田中信治、茶山一彰：Helicobacter pylori 陰性胃癌症例の検討

第 11 回運動疫学研究会（9 月 6 日、広島市）
・笠置文善、山田美智子、佐々木英夫：肥満・体格指標と予後―成人健康調査からの成績―
・中本稔、谷本文代、佐々木英夫：広島市の健康づくり―元気じゃけんひろしま 21
第 9 回運動疫学研究会でのシンポジウム（9 月 7 日、広島市）
・入江三枝子：生活習慣改善のための有効な方法とは　健康増進施設用プログラム
第 63 回日本体力医学会大会でのワークショップ（9 月 18 日～20 日、別府市）
・入江三枝子、佐々木英夫：運動による高齢者の健康づくりー高齢者の理解と支援のためにーより効果的な運動方法への模索　至適な高齢者の身体活動への提案
第 46 回日本消化器がん検診学会大会（10 月 1 日～4 日、東京都）
・佐々木敦紀、前田亮、佐々木英夫：当センターにおける被爆者胃がん検診の成績
日本放射線技術学会第 36 回秋季学術大会（10 月 23 日～26 日、軽井沢）
・田村隆行：Biexponential ADC curve から各 Fast, Slow component の情報を算出する際の正確性の検討
・横町和志：検査センターにおける胸部 CT スクリーニング検査での DOSE の最適化
第 41 回中国四国医学検査学会（10 月 31 日～11 月 1 日、下関市）
・手島祐子、高本美保、平仁美、足免弘章、加藤博也、佐々木英夫、藤村欣吾：末梢塗抹標本の異常より見出された原発性マクログロブリン血症の 1 症例
日本糖尿病学会中国四国地方会第 46 回総会（11 月14日～15 日、宇部市）
・吉良さくらこ、入江三枝子、福島徳子、前田亮、佐々木英夫、伊藤千賀子：インスリン分泌低下のある境界型群に対する糖尿病予防介入効果
・入江三枝子、福島徳子、片山美和子、吉良さくらこ、佐々木英夫、村上文代、伊藤千賀子：糖尿病予防に関する介入研究
・福島徳子、亀島佑佳、片山美和子、入江三枝子、吉良さくらこ、佐々木英夫、村上文代、伊藤千賀子：アルコール摂取量の減量別にみた諸種臨床検査成績の比較
・吉良さくらこ、源内徳子、入江三枝子、原田寿子、前田亮、佐々木英夫、伊藤千賀子：広島市における糖尿病第一次予防プログラム―3 年間の介入実績―
平成 20 年度全国健康増進施設研究会（11 月 29 日、京都市）
・福島徳子、亀島佑佳、片山美和子、入江三枝子、吉良さくらこ、村上文代、佐々木英夫：アルコール摂取量の減量別にみた諸種臨床検査成績の比較
The 50th scientific meeting of American Society of Hematology(7 December San Francisco USA)
・Kingo Fujimura, Fumiyoshi Kasagi, Chikako Ito, Hideo Sasaki : Prevalence and causes of death in patients with monoclonal gammopathy in Atomic bomb survivors in Hiroshima

(2) 講演会
糖尿病予防教室ー西保健センターー（1 月 16 日、広島市）
・吉良さくらこ：糖尿病予備軍さよなら！よくわかる糖尿病のはなし
名古屋市立大学「高齢者健康づくり指導者養成セミナー」（1 月 26 日、名古屋市）
・佐々木英夫：生活習慣病予防と運動
県ジュニア合宿（中高校生）での講習会（2 月 23 日、広島市）
・源内徳子：ジュニアアスリートのための食トレーニング
第 8 回広島 Gyro meeting（3 月 15 日、広島市）
・田村隆行：ＭＲ信号ってなんじゃ？
広島大学大学院医歯薬学総合研究科・保健学研究科「予防医学・健康指導のための基礎講座」（4 月 30 日、広島市）
・佐々木英夫：健診制度・個人情報保護

第 1 回健康増進事業推進セミナー(4 月 15 日、広島市)
・佐々木英夫：公的体育施設における健康増進事業の現状と課題
広島県放射線技師会平成 20 年度第 1 回研修会(5 月 11 日、広島市)
・田村隆行：拡散強調画像(Diffusion Weighted Image：DWI)の原理と Body Diffusion について
中国電力研修会(5 月 13 日、広島市)
・佐々木英夫：ドーピングコントロールの現状と注意点
メタボ退治講座－安佐北保健センター－(5 月 13 日、広島市)
・吉良さくらこ：糖尿病予備軍さよならメニュー「増えています！糖尿病」
福山ＭＲ勉強会(6 月 13 日、福山市)
・田村隆行： Body diffusion を科学する
第 2 回備後糖尿病療養指導士会での講演会(7 月 13 日、福山市)
・入江三枝子：いつでも！どこでも！手軽にできる運動療法
呉地区放射線技術研究会(7 月、呉市)
・品川祐樹：胃 X 線撮影法の基礎
平成 20 年度山口県被爆者総合相談会(9 月 12 日、下関市)
・佐々木英夫：被爆者の健康管理について
JICA「生活習慣病予防対策」研修コース(9 月 17 日、広島市)
・佐々木英夫：生活習慣病の予防
第 55 回広島MR撮像研究会 (9 月 26 日、東広島市)
・田村隆行：基礎講座１～原子核磁気モーメントμと共鳴～
糖尿病予防教室－安佐北保健センター－(10 月 7 日、広島市)
・吉良さくらこ：基礎編「増えています！糖尿病」
広島南ロータリークラブ講演会(10 月 31 日、広島市)
・佐々木英夫：ドーピングに関する最近の話題
第 1 回歩こうや！ひろしま　健康ウォーキング大会(11 月 8 日、広島市)
・入江三枝子：元気じゃけん体操Ⅱ・ウォーキングの実技
平成 20 年度山口県被爆者総合相談会(11 月 14 日、山口市)
・佐々木英夫：被爆者の健康管理について
第 56 回広島MR撮像研究会 (11 月 14 日、東広島市)
・田村隆行：基礎講座２～磁気緩和について～
名古屋市立大学「高齢者健康づくり指導者養成セミナー」(11 月 15 日、名古屋市)
・佐々木英夫：生活習慣病予防と運動
広島県放射線技師会　中央支部勉強会 (11 月 20 日、広島市)
・田村隆行：最新の 1.5T MRIについて
・横町和志：64 列CTの使用経験
・品川祐樹：新胃 X 線撮影法について

(3) 論文

・Michiko Yamada, Yasuyo Mimori, Fumiyoshi Kasagi, Hideo Sasaki:Incidence of dementia, Alzheimer disease, and vascular dementia in a Japanese population:the Adult Health Study , Neuroepidemiology 30,152-160,2008
・源内徳子：スポーツと食事　早寝、早起き、朝ごはん．ウイング，Vol.51：12，㈶広島市スポーツ協会，2008.1.
・佐々木英夫ら：ジュニア選手の健康管理マニュアル．㈶広島県体育協会編，2008.3

・源内徳子：スポーツと食事　運動後の栄養補給で回復力アップ～トップアスリートを目指すために～．ウイング，Vol.52：12，㈶広島市スポーツ協会，2008.3.
・源内徳子：アスリートのための食トレーニング　Q&A．NEWS，Vol.61：4，㈶広島陸上競技協会，2008.3.
・福島徳子：スポーツと食事　練習前の食事のポイント．ウイング，Vol.53：12，㈶広島市スポーツ協会，2008.6.
・佐々木英夫：スポーツ医・科学委員会の活動．平成19年度広島県スポーツ年鑑，㈶広島県体育協会編，2008.7
・福島徳子：スポーツと食事　ベストコンディションで試合に臨むための食事のポイント．ウイング，Vol.54：10，㈶広島市スポーツ協会，2008.9.
・福島徳子：アスリートのための食トレーニング　食事で解消！スポーツ貧血．NEWS，Vol.62：4，㈶広島陸上競技協会，2008.7.
・佐々木英夫：筋力と中高年の予後．わかさ 8月号，12－13，2008.
・佐々木英夫ら：ドーピングコントロール便利帳．㈶広島県体育協会編，2008.9
・福島徳子：アスリートのための食トレーニング　練習前の食事のポイント．NEWS，Vol.63：4，㈶広島陸上競技協会，2008.12.
・佐々木英夫、源内徳子ら：陸上競技ジュニアアスリートのドーピングに対する意識．広島陸上競技研究，Vol.11：17－20，2008.
・佐々木英夫：編集後記．広島陸上競技研究，Vol.11：21，2008.
・石田啓、渡邊敦子、佐々木敦紀、井上典子、加藤博也、内藤久美子、吉良さくらこ、前田亮、佐々木英夫：原爆被爆者における生活機能評価の検討．長崎医学会雑誌，Vol.83：220－225，2008.
・佐々木敦紀、渡邊敦子、石田啓、井上典子、加藤博也、内藤久美子、吉良さくらこ、前田亮、佐々木英夫：被爆者大腸がん検診15年の成績．長崎医学会雑誌，Vol.83：238－242，2008.
・藤村欣吾、佐々木英夫ら：多発性骨髄腫検診による被爆者M-蛋白血症について―被曝状況との関係―．長崎医学会雑誌，Vol.83：259－263，2008.
・入江三枝子、真鍋智恵、源内徳子、片山美和子、吉良さくらこ、佐々木英夫：メタボリックシンドローム（ＭＳ）予防に効果的な運動量．広島スポーツ医学研究会誌，Vol.9：17－19，2008.
・佐々木英夫ら：アスリートのドーピングに対する意識．広島スポーツ医学研究会誌，Vol.9：20－22，2008.

(4) ＤＶＤ・ＶＨＳ

・入江三枝子：元気じゃけん体操Ⅱ（筋肉を鍛える運動）．広島市・広島市健康づくりセンター・元気じゃけんひろしま21推進会議（身体活動・運動部会），2008.

Ⅶ　資　料

1　年賀寄附金配分金による実施事業

（単位：円）

年　度	事　　業　　名	事業費総額	配分金額
昭和 34 35	原爆被爆者福祉センター本館建設	55,844,000	52,300,000
38	健診車、原爆被爆者福祉センター暖房設備設置	27,379,000	16,850,000
41	原爆被爆者福祉センター増築	92,100,000	41,000,000
43	テレビレントゲン装置、オートアナライザー設置	30,490,000	20,000,000
45	原爆被爆者福祉センター増改築	56,548,000	25,000,000
47	ハイゼルマーク X、コールターカウンター設置	59,000,000	29,000,000
49	コールターカウンター搭載健診車(1 号車)購入 パンスパイロコンピュータ設置	39,828,000	24,000,000
51	胃検診用 X 線テレビジョン装置 コールターカウンター設置	43,900,000	23,000,000
53	X 線テレビジョン装置 胸部一般撮影用装置設備	37,600,000	23,000,000
55	自動血球分類装置(diff-3)	50,000,000	28,000,000
57	コールターカウンター搭載健診車(2 号車)購入	42,800,000	28,000,000
59	コールターカウンター搭載健診車(1 号車更新)購入	42,920,000	30,000,000
61	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-501) 胃透視用 X 線テレビ装置設備	76,000,000	40,000,000
63	コンピューテッドラジオグラフィ(CR-201) CR 専用 X 線透視撮影台設備 CR 用光ディスク画像ファイル装置設備	156,000,000	70,000,000
平成 2	超電導 MRI 装置設置	83,430,000	50,000,000
4	コールターカウンター搭載健診車(2 号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR7501(CR-501 更新)	78,000,000	46,000,000
6	コールターカウンター搭載健診車(1 号車更新)購入 コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-201 更新) 光ディスク画像ファイル装置 集合型光ディスク画像ファイル装置	134,000,000	67,000,000
8	CR 用 X 線透視撮影装置 MRI 装置のバージョンアップ	92,000,000	36,000,000
10	コンピューテッドラジオグラフィ CR9000(CR-7000 更新) 心電図データマネジメントシステム	73,500,000	25,725,000
12	MRI 装置(更新)	144,375,000	10,000,000
14	自動血球計算装置(更新)	21,315,000	7,460,000
16	全自動血球計算装置搭載健診車(2 号車更新)	33,180,000	10,000,000
18	全自動血球計算装置搭載健診車(1 号車更新)	27,615,000	2,060,000
20	超音波診断装置（更新）	12,915,000	4,916,000
合　　計		1,510,739,000	709,311,000

２　日本自転車振興会補助金による実施事業

（単位：円）

年　度	事　　業　　名	事業費総額	補　助　金
昭和 41	原爆被爆者有福温泉療養研究所 建設工事・用地買収整備	46,885,000	29,150,000
42	原爆被爆者健康管理設備等の整備 健康診断用自動車整備・X 線装置整備	5,565,000	2,550,000
43	原爆被爆者有福温泉療養研究所 暖房設備工事・倉庫建設工事	15,401,000	5,430,000
平成元	原爆被爆者の診療機器の整備 CR 専用 X 線透視撮影台 心電図自動解析ファイリング装置	74,469,000	37,234,500
3	原爆症診療機器の整備 X 線骨密度測定装置・超音波診断装置	29,272,000	14,636,000
5	原爆症診療機器の整備 胃集検用 X 線デジタルラジオグラフィ装置	65,000,000	32,500,000
7	原爆症診療機器の整備 CR 用 X 線透視撮影装置	36,000,000	14,420,000
9	原爆症診療機器の整備 X 線骨密度測定装置	24,675,000	6,825,000
11	原爆症診療機器の整備 X 線テレビ装置（ＤＲシステム）	32,025,000	14,700,000
13	原爆症診療機器の整備 超音波診断装置	16,695,000	8,242,000
合　　計		345,987,000	165,687,500

３　車両競技公益資金記念財団補助金による実施事業

（単位：円）

年　度	事　　業　　名	事業費総額	補　助　金
昭和 53	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室の増改築、消防設備・機械室の整備 厨房・静養室・外壁の補修工事	22,550,000	7,560,000
62	原爆被爆者有福温泉療養研究所 ロビー事務室改修工事、食堂拡張及び内装工事 アルミサッシ取替及び木製建具工事等	21,390,000	14,260,000
平成 4	原爆被爆者有福温泉療養研究所 客室内装工事、アルミサッシ取替工事 外壁塗装及びボイラー・貯水槽更新等	45,629,000	29,520,000
9	原爆被爆者有福温泉療養研究所 浴室・浴槽改修工事、リネン室防水工事	36,236,500	15,300,000
10	原爆被爆者有福温泉療養研究所 屋上陸屋根防水工事	20,454,000	10,220,000
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所 外壁・厨房等改修工事	15,855,000	7,920,000
合　　計		162,114,500	84,780,000

４　広島県補助金による実施事業

（単位：円）

年　度	事　　業　　名	事業費総額	補　助　金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,906,964	800,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	800,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	800,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	800,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	800,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	800,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	800,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,300,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,500,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,500,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,500,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,500,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,500,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,500,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,500,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,500,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,500,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,500,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,500,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,500,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,500,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,500,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,500,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,500,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,500,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,366,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,146,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,123,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	694,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	951,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,148,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	1,033,000
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所　外壁・厨房等改修工事	15,855,000	2,156,000
合　　計		411,917,521	101,303,000

５　広島市補助金による実施事業

（単位：円）

年　度	事　　業　　名	事業費総額	補　助　金
昭和 41	被爆者援護福祉事業	2,903,964	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　建設工事	46,885,000	9,727,000
42	被爆者援護福祉事業	1,998,945	1,000,000
43	被爆者援護福祉事業	2,900,650	1,000,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　暖房・倉庫建設工事	15,401,000	3,000,000
44	被爆者援護福祉事業	2,957,580	1,000,000
45	被爆者援護福祉事業	3,010,450	1,000,000
46	被爆者援護福祉事業	2,753,710	1,000,000
47	被爆者援護福祉事業	3,209,700	1,000,000
48	被爆者援護福祉事業	4,227,500	1,500,000
49	被爆者援護福祉事業	4,028,242	1,500,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　冷暖房取付工事	6,350,000	3,000,000
50	被爆者援護福祉事業	5,568,000	1,700,000
51	被爆者援護福祉事業	5,260,000	1,700,000
52	被爆者援護福祉事業	5,372,000	1,700,000
53	被爆者援護福祉事業	6,188,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　浴室増改築工事等	22,550,000	6,000,000
54	被爆者援護福祉事業	6,494,000	1,700,000
55	被爆者援護福祉事業	6,335,000	1,700,000
56	被爆者援護福祉事業	6,447,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　屋根防水改修工事等	15,100,000	6,040,000
57	被爆者援護福祉事業	5,660,000	1,700,000
58	被爆者援護福祉事業	6,011,000	1,700,000
59	被爆者援護福祉事業	5,467,000	1,700,000
60	被爆者援護福祉事業	5,541,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　屋根防水工事等	13,400,000	4,280,000
61	被爆者援護福祉事業	5,511,000	1,700,000
62	被爆者援護福祉事業	6,145,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　食堂拡張工事等	21,390,000	2,852,000
63	被爆者援護福祉事業	6,230,000	1,700,000
平成元	被爆者援護福祉事業	6,473,000	1,700,000
2	被爆者援護福祉事業	6,621,000	1,700,000
3	被爆者援護福祉事業	6,775,000	1,700,000
4	被爆者援護福祉事業	6,914,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　内装工事等	45,629,000	6,442,000
5	被爆者援護福祉事業	6,043,000	1,700,000
6	被爆者援護福祉事業	4,364,000	1,700,000
7	被爆者援護福祉事業	4,717,780	1,700,000
8	被爆者援護福祉事業	4,571,000	1,700,000
9	被爆者援護福祉事業	4,637,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　浴室・浴槽改修工事等	36,236,500	7,800,000
10	被爆者援護福祉事業	4,771,000	1,700,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　屋上陸屋根防水工事等	20,454,000	4,093,000
11	被爆者援護福祉事業	4,026,000	1,530,000
12	被爆者援護福祉事業	3,587,000	1,530,000
13	被爆者援護福祉事業	2,023,000	1,329,000
14	被爆者援護福祉事業	2,272,000	1,300,000
	原爆被爆者有福温泉療養研究所　空調設備更新工事等	15,823,500	5,279,000
15	被爆者援護福祉事業	2,612,000	1,300,000
16	被爆者援護福祉事業	3,099,000	715,520
19	原爆被爆者有福温泉療養研究所　外壁・厨房等改修工事	15,855,000	2,156,000
合　　計		458,799,521	119,673,520

６　日本高等学校教職員組合等からの寄付金

（単位：円）

年　度	日本高等学校教職員組合	個人・その他の団体	合　　計
昭和 38	30,000	180,638	210,638
39	37,298	158,881	196,179
40	－	485,027	485,027
41	30,000	385,603	415,603
42	－	503,278	503,278
43	97,075	354,883	451,958
44	72,916	556,012	628,928
45	276,389	220,175	496,564
46	176,664	435,108	611,772
47	475,358	533,674	1,009,032
48	630,433	358,972	989,405
49	876,166	432,000	1,308,166
50	1,008,761	450,982	1,459,743
51	1,091,674	290,000	1,381,674
52	1,212,000	235,500	1,447,500
53	1,224,093	943,000	2,167,093
54	1,464,294	150,000	1,614,294
55	1,444,053	380,000	1,824,053
56	1,316,185	85,000	1,401,185
57	1,514,511	580,070	2,094,581
58	1,583,894	308,000	1,891,894
59	1,532,635	342,000	1,874,635
60	1,505,193	103,000	1,608,193
61	1,468,864	1,710,500	3,179,364
62	1,496,799	88,400	1,585,199
63	1,514,795	63,755	1,578,550
平成元	1,574,770	305,000	1,879,770
2	1,501,600	415,000	1,916,600
3	1,586,500	5,000	1,591,500
4	1,617,000	0	1,617,000
5	1,487,000	0	1,487,000
6	1,425,000	510,000	1,935,000
7	1,480,000	0	1,480,000
8	1,525,000	470,000	1,995,000
9	1,400,000	1,800,000	3,200,000
10	1,435,000	0	1,435,000
11	1,345,000	250,000	1,595,000
12	1,300,000	0	1,300,000
13	1,270,000	0	1,270,000
14	1,160,000	50,000	1,210,000
15	1,110,000	5,025,000	6,135,000
16	970,000	0	970,000
17	980,000	301,033	1,281,033
18	930,000	0	930,000
19	870,000	0	870,000

年　度	日本高等学校教職員組合	個人・その他の団体	合　　計
20	850,000	0	850,000
合計	47,896,920	19,465,491	67,362,411

7　全国から寄せられた寄付金

（資料６再掲，敬称略）

年　度	合 計 金 額	件数	寄　付　者　氏　名
昭和 29	239,486 円	39 件	埼玉県比企郡自然科学研究所，中和孝三，若月一夫，広島ロータリークラブ，無名子，斉藤金三，東京都渋谷区議員団，サンエッチ外，中井一夫，中島茂，無名子，NHK 一般募金，大阪市立松宮小学校同窓会，清水達造，伊勢谷洋一，増川義信，広島美術人展，岸英一，毛利典欖，米子市口陰田婦人会並青年団，豊田郡大草村青年団〇支部代表者吉田宣徳，日本国民健康会長和気清喬，吉本美枝子，中野正義，匿名，中国電波管理局組合支部長，石田ハル，一凡人，沢千代子，田川一男・順二，傷痍軍人会・長門労働組合連合会・長門連合青年会，原爆障害者救援会会員一同，一海上自衛隊員，匿名人，池田稔，宮原高等学校弁論部，セタヤ・ビカッシュ・バーナジエ，広島県博愛協議会中島茂，池田稔
30	419,804 円	38 件	池田稔，広島ライオンズクラブ会長寺田豊，湯浅傳，池田稔，蓑〇豊子外 24 名，青山晴男，佐々木一，岩手小学校五年一組 34 名一同，アイラ・レ・モーリス，広島県博愛協議会中島茂，土岡博一，能代市職域文化団体連絡協議会笹村堅一郎，匿名，奥田洋子，法政大学県人会，京都子供カリタス会，一高校生，朝枝章，広島平和美術展事務局，大阪Ｔ生，匿名，銀座東宝社長，呉市宮原高校卒業生プラタナス会代表竹中三郎，原水爆禁止小金井準備会長鈴木誠一，海老名町青年団，斉藤嘉輔・明子，小倉市Ｉ子，藤岡女子高等学校生徒会，ブラジル・マルネイラセーマ町より，原田久，高知県安藝郡教員組合，原田東岷，ポートドーバーライオンズ倶楽部，セントピーターライオンズ倶楽部，原爆惨禍相起協議会長遠藤南史，美〇ミシン工業株式会社，近藤ミシン株式会社，明治大学広島県人会
31	3,230,819 円	98 件	原爆惨禍想起協議会長遠藤南史，島田平和の集い準備会島田市長，北海道農民同盟青年部，富山市奥田枝下婦人会，島田市クリスタルクラブ，森廉，下呂平和を護る会準備会，柳川小学校六年一組一同，無名，浜崎谷松，落合一男，藤村進，マレー　ヤング，古谷良念，無名子，海上自衛隊〇〇隊十五分隊，安芸教区仏青連協議会長〇重一教，渡辺弘子，大阪住友金属工業会社外十二社，東海田町青年団寺迫支部代表田原〇男，医師会卒業者無名氏，横浜市新生活運動婦人〇〇会一同，福家俊明，野溝〇人，ある少女，森数美，一女生，大阪東区一高校女学生，高橋信雄，徳原芳子，遠藤南史，小林蘊徹，梅林とし子，榎原彰夫，無名氏，八・一五終戦記念平和の夕世話人会代表堀口恒次，無名氏，〇〇〇〇〇〇〇〇，山口県豊田町殿居地区婦人会長岡崎あつ子，服部保外十四名，全国連合竹和会，賀茂郡造賀村婦人会代表辻川静枝，中山教進・〇〇〇・国定典明，神阪〇子，国鉄幡生工場原爆罹災者救援会小西旭，山崎常雄外九名，中学一少女，東淀川平和の夕実行委員会，古谷良念，尾久母の会南支部・仲支部・東支部一同，兄妹三人無名子，茶谷京子，田中卓爾，広本露子，大谷高校二年生，高橋又一，鉄砲町一吉方一，元宇品小学校五年生一同，大阪市内某氏，菊池京子，一中学校学級一同，大原乙彦，広島市原子力平和利用博覧会長渡辺忠雄，井口愛之助，大森植松，柳田孝，東京都共同募金会長藤山愛一郎，兵庫県共同募金会長岡崎忠，無名士盲人，茨木県取手第〇〇学校生徒会長大久保征夫，北米加州バークレー広島県人会長大館誓一，大阪某氏，無名氏，〇〇孟範，遠藤南史，身体障害者厚明会長，中国訪日京劇団代表・朝日新聞社，井上敏子，秋本庸夫，山田千恵子，大歳盛明，太陽海運株式会社，長井あきよ，山田千恵子，三人の友達，成名小学校・鴨川中学校，維信高等学校二年Ｄ組ひいらぎグループ，広島県司法書士会員総会出席者有志，全国司法職員労働組合広島支部，宮崎迫彦，安永隆夫，金沢薫台高等学校二年修学旅行団，羽昨高等学校生徒会，アーヴィンクンツ夫妻，高木俊子，羽田〇良正，益村弥太郎，クロンドチーク
32	149,684 円	21 件	大森シゲ，山田〇〇〇〇，井木康秀，赤川正章，匿名氏，山田千恵子，斉藤明子，読売新聞社新聞〇〇委員会，取石小学校児童会，金清公夫，一青年，宮原太郎，下広井原青年団小川博〇外十三名，匿名，栗栖勝，久留米市匿名，法政大学建築科一同，城東中学校生徒会，上田柳吉，吉坂中学校原田耕滋外十四名，フレデークイン
33	293,316 円	50 件	日本原水爆被災者救援会代表篠原つる子，増田呉省，Medizinisehe Klinik，朝山カツノ，江田島自衛隊〇〇学校生徒，〇〇高校三年図書部・〇〇君子，匿名，ドイツ医学週間法出版社，東京田無町婦人連絡協議会，シチズン時計工場内文化部映画班，田口正治，大竹市小方中学生徒会，一無名士，清香仏教青年会，名田典子，岩国市立東小学校五年二組一同，橋詰博，三立製菓株式会社・鈴木自動車工業会・〇〇トマト会外三社，吉原信之，斉藤明子，漫画協団代表筑摩鉄平，中豊純子・實二，秋田県沖田〇小学校五年生一同，京都市一中学生，第一製菓・三共〇〇・オリンパス光学・カミシマ製作社・小野田セメント・沖電気工業会社・三菱電気・東芝商事，高校生二名，梅津町青年団西江支部，

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
昭和 33			横山妙，田口正治，〇〇無名氏，大洲病院一同，築地子供会，東町連合子供クラブ一同，川崎市東芝〇附工，段原女子女学園中学一年六組一同外匿名三，野口あき，東京電気大学〇〇学校・浜田加代子・土肥邦雄・三村豊・タクシー運転手・松下和義・山田洋士・東京忍岡高校生・〇川〇〇，屋代小・中学校・戸倉中学校，匿名，広島県〇〇〇・吉本勝・浜田カヨ子，山田千恵子，高橋昭博，杉渕徳治，山田千恵子，河野次郎・県教職組合・乃美小学校 6 年〇組，〇尾冨美子
34	575,892 円	32 件	丸本杏男，山田千恵子，日本むつみ会，山田千恵子，奈良県一〇人，山田千恵子，吉岡隆夫，神戸市親和高校グループ，日本むつみ会老生，山田千恵子，金沢兼之助，東京福祉協会理事小祝昌弘，四人の女月光仮面，一読者，愛知トマト KK 他 7 社，日本むつみ会老生，(匿名)，大阪一女性，匿名者，田口正治，グレチエン・タットヒル，古賀和紀，グレチエン・タットヒル，金光教群馬県西部連合会，藤村弘，全日労組合広島地方会議組合員，篠村つる子，香川県千羽鶴運動実行委員会，イタリア生，(匿名)，浦辺和美外三名，徳竹道生外一名
35	78,957 円	17 件	広島予研支所匿名，広島予研支所匿名，アーサー・マリー・アイビンダー，赤松鉄也，赤松鉄也，匿名，篠村つる子、金子健次郎，大阪 K.E.氏，匿名，匿名，山田千恵子，山田千恵子，森新一，山田千恵子，原水爆禁止大川市協議会長古賀清治，広島県競輪選手会
36	1,935,402 円	30 件	紺野光吉，紺野光吉，日本原水爆被災者救援協会代表富井令子，石田久子，山田キク，関つる，山蔭貫之，関つる，紺野光吉，日本電装労働組合，ルイス・カヴレル，匿名，匿名 2 名，全大丸労働組合神戸支部，全国財務労働組合，紺野光吉，原田東岷，安佐郡長束地区婦人会長原田静枝，寺本典夫，佐藤富子，土井憲策，山崎君子，愛知県立明和高等学校定時制夜間課程職員生徒一同，石川県立工業高等学校デザイン科有志，紺野光吉，原爆傷害調査委員会代表ジョージ・B・ダーリング，紺野光吉，柿原幸二，小崎芳子，紺野光吉
37	140,129 円	19 件	紺野光吉・無名氏，三次中学校，三次町本通一子供会，紺野光吉・匿名，山田千恵子，小川亀三，日〇一社員外三氏匿名，紺野光吉・m.y.，清水芳郎，駒込学園一同，呉造船労組宮原地区家族会，日本司法書士会連合会総会出席者，東大教育学部高校一年 A 組，板木節夫，藤田正行，河原卓一，安永茂雄，日下部春一，岩滝宗雄
38	210,638 円	23 件	神戸市育英高等学校一年十組，中村勝弥，奥田光太郎，空調タイムス社代表取締役杉本英太郎，大歳盛明，志村寛一，ノートルダム清心高等学校三年生一同，山田千恵子，山田千恵子，徳島県民主社会主義青年連合組織部長岡内淑夫，般若太郎外七口，岡本稔雄・吉田町役場職員組合，村上春雄，ロスアンゼルス・シカゴミヤコ観光団，日本高等学校教職員組合，中川シゲノ，山口親愛教会 S 氏，(匿名)，本間妙海，匿名，村上和輝，日赤東京都支部寄託，読売新聞社寄託
39	196,179 円	18 件	読売新聞社寄託 2 名，日赤東京都支部寄託，匿名，山田千恵子，中国新聞社会事業団寄託，政治経済研究会代表番匠朝昭，日本高等学校教職員組合代表礒本達則，中国新聞社会事業団寄託，土手和海外二名，原水爆禁止門〇市協議会会長東重太郎，金沢なでしこ会三人，金光教広島県連合会外二件，岐阜県立中津高等学校職員二学年一同，黒瀬町上黒瀬小学校五年生一同，福島県石川実務学園長外三ケ所，朝日新聞山口支局寄託，石川県立金沢高等学校二四ホーム一同，大〇七一
40	485,027 円	23 件	神戸新聞厚生事業団寄託，石川県金沢高等学校修学旅行団，パリ大学医学部ウェーグマン教授夫妻，中川製袋化工 KK35 周年記念会招待者一同，〇生製作所労組，渋谷区代々木善明会教団，全国自動車産業労働組合連合会東海支部，山形県 16 歳学生，中島マチ，豊島区 S.K，こばやし，塚本利光，大豊〇樹，尾川昭外七ケ所，比和中学校福田部落会生徒，キリンビール労働組合広島工場支部長〇〇永〇〇，松岡洋子・岡本・玉置せき，東京電気大学高校普通科二年生一同，日本大学豊山学園友輪会，豊橋市時〇〇高校二年一組一同，豊川地方労働組合，〇田照夫，石本タケノ
41	415,603 円	18 件	喫茶ガーネット、小池静子外二名，県内に住む一女性，三宅千代子，日本高等学校教職員組合中央執行委員長礒本達則，善明会教団東京支部，セント・ジエルジ博士，右田辰雄・原水爆禁止議員連盟外二名，東京電機工業高等学校定時制及全日制生徒〇〇〇キリスト〇〇，大阪市旅行クラブ「浪花会」，国際協力及軍備に関するオーストラリヤニュージーランド委員会，吉田達雄，安田火災労働組合東京分会青年婦人部一同，土井憲作，南千田ヘルスセンター，山本雅子，矢沢一民，旧普通科神〇高等学校一年三組，
42	503,278 円	21 件	川上ナルエ，堤健一郎，徳原スミ子，飯田商店外二者，杉山博康，小松修，神戸外大二部原水禁実行委員会一同，片山茂樹，法眼〇外五件，三次市栗原町婦人会外二件，新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶円，読売新聞社寄託，金洞海，山形 KO

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
			東京電機大学高校工業科二学年一同・定時制四年Ｃ組一同，奈良県青龍寺小西妙淳，全日本印刷工業組合連合会中国地区印刷工業組合協議会広島県印刷工業組合，フランス人シャンボイゼ，新田修三，関川守彦，下松市私立慈光園長・匿名梓蔭高校
43	451,958 円	20 件	日本高等学校教職員組合，長崎原子爆弾被爆者対策協議会長諸谷義武，日本火薬福山工場ダンス同好会一同，本田英郎，日本高等学校教職員組合，大口あさを，金井政吉，姫路市匿名，舟入本町商店街，広島市の者，藤井音次郎，新潟県十日町市原水禁協議会長服部慶圓，沖一成，藤井音次郎，日本高等学校教職員組合，東海大学原子力教室，ビクターオート(株)広島営業所，酒井幸四郎，藤井音次郎，藤井音次郎
44	628,928 円	23 件	香川県高等学校教職員組合執行委員長古川静夫，藤井音次郎，水木ナツ，藤井音次郎，小畠静江，金井政吉，入田律子，舟入本通会，一老人，田中茂，新潟県十日町市原水爆禁止協議会，藤井音次郎，日本高等学校教職員組合中央執行委員長曽我部忠一，日本高等学校教職員組合執行委員長古川静夫，桂雄一，徳山市蟻の会代表水木敏郎，鈴川寅二，ヒロスイ株式会社員加賀愛万・下岡好一・西村浩，鯉城クラブ，藤井音次郎，大園英彦，藤井音次郎，小野広秋
45	496,564 円	27 件	藤井音次郎，友広和夫，一匿名者，一匿名者，金井政吉，匿名の一少女，日本高等学校教職員組合中央執行委員長曽我部忠一，藤井音次郎，神戸市職青年部神戸市葦合区役所・神戸市生田区役所有志，堀内登久子，新潟県十日町市原水爆禁止協議会，匿名者，湧井雅晴，小西清，高田和典，法政大学女子高校１年Ｆ組，岩室久一，横光利之，苫小牧西高等学校新聞局，明大附属中野中学校２年生，藤井音次郎，一市民，狩野重治，藤井音次郎，岡野チヨノ，八木千代，日本高等学校教職員組合中央執行委員長曽我部忠一
46	611,772 円	19 件	藤井音次郎，藤井音次郎，金井政吉，広島市無名氏，藤井音次郎，日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之，柴崎英治，原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美，三重県立紀南高等学校修学旅行団一同，藤井音次郎，今田稔穂，広島木工製材機械協会，森崎律子，藤井音次郎，広島市匿名氏，安佐ボール社長武智義則，広島市無名氏，藤井音次郎，藤井音次郎
47	1,009,032 円	20 件	山口大学 YMCA 代表者山崎まり子，藤井音次郎，松川宣正，松川宣正，広島市Ｙ子，日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之，下田工業株式会社広島支店長小野敏次，広島市無名氏，原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美，新谷五郎，松坂次男，藤井音次郎，原田東岷，飯田昭二，藤井音次郎，エア・ポートレーン支配人登勝志，広島市民無名氏，福岡県立浮羽高等学校二年五組グループ代表野上美由貴，岩手県釜石南高等学校社会研究部長佐藤三良，藤井音次郎
48	989,405 円	13 件	広島木工製材機械協会長金子堅一，藤井音次郎，大高美代，岡儀造，日本高等学校教職員組合中央執行委員長山本弘之，下田工業株式会社広島支店従業員代表支店長小野敏次，原水爆禁止十日町市協議会書記長南雲藤平，藤井音次郎他，藤井音次郎，岡正造，藤井音次郎，甚兵衛ボールガータスクラブ代表進藤芳樹，藤井音次郎
49	1,308,166 円	11 件	渡辺ツルコ，足門ミドリ，日本高等学校教職員組合，広島市内原爆被爆者，原水爆禁止十日町市協議会，藤井音次郎，日本高等学校教職員組合中央執行委員長木山八郎，奥野ワカヨ，広島市原爆被爆者，市山律子，上山しのぶ
50	1,459,743 円	11 件	坂本悦治，乙井ミツエ，愛媛県立南宇和高校生徒会顧問武田裕典，広島市民被爆無名者，広島第一劇場代表取締役吉田尚行，広島木工製材機械協会長金子堅一,西部浩子，日本高等学校教職員組合，関が原石材労働組合中央執行委員長村瀬秀夫，籾倉利明，西部浩子
51	1,381,674 円	4 件	広島鉄道管理局広島工場桂哲雄，河野和夫，日本高等学校教職員組合，長崎正明
52	1,447,500 円	7 件	大山ミチ子，松上年雄，広島木工製材機械協会，東京の一学生，日本高等学校教職員組合中央執行委員長斉藤啓夫，清水由紀子，高橋彰温
53	2,167,093 円	9 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長中川金作，浜井澄人，山口能弘，荒木邦男，山田春三，府中農協病院植田繁男，川村法人
54	1,614,294 円	2 件	日本高等学校教職員組合，東洋工業 K.K.監査部主管籾倉誠
55	1,824,053 円	4 件	寺岡聖，日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄，森崎利樹，藤井幸子
56	1,401,185 円	4 件	高野慶子，山口大学平和キャラバン隊，日本高等学校教職員組合中央執行委員長金橋寿雄，巖利文
57	2,094,581 円	5 件	日本高等学校教職員組合中央執行委員長服部寛信，山口大学ユネスコクラブ第 12 回平和キャラバン隊，花田実男，栃木県烏山女子高等学校三年一組一同，大阪産業大学教職員有志によるチャリティーバザー実行委員会
58	1,891,894 円	6 件	大高美代，京極春子，山口大学ユネスコクラブ平和キャラバン隊，原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美，ゼンセン同盟十日町職労佐藤敬，日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫

年 度	合 計 金 額	件数	寄 付 者 氏 名
			大高美代，京極春子，山口大学ユネスコクラブ平和キャラバン隊，原水爆禁止十日町市協議会長松井愛美，ゼンセン同盟十日町職労佐藤敬，日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫
59	1,874,635 円	9 件	全日本宗教用具組合連合会，大高美代，大熊開市，日本高等学校教職員組合中央執行委員長森田忠夫，中野ツルエ，大熊開市，大熊開市，大熊開市，大熊開市
60	1,608,193 円	12 件	大熊開市，大熊開市，大熊開市，大熊開市，大高美代，日本高等学校教職員組合，大熊開市，大熊開市，大熊開市，大熊開市，大熊開市，大熊開市
61	3,179,364 円	11 件	大熊開市，大熊開市，松坂次男，大熊開市，大高美代，日本生命中央営業部藤本勇他職員，一匿名者，日本高等学校教職員組合，酒井真司，山村智寿子，新中央工業株式会社代表取締役本部長中西忠彦
62	1,585,199 円	5 件	財団法人多山報恩会，大高美代，さくらタクシー社長藤谷源市，日本高等学校教職員組合，匿名者
63	1,578,550 円	6 件	森田長昭，匿名者，大高美代，日本高等学校教職員組合，紀州アート株式会社，匿名者
平成元	1,879,770 円	5 件	藤原雄，広島木工製材機械協会長前田静正，大高美代，日本高等学校教職員組合，柘植正
2	1,916,600 円	5 件	柘植好江，石田ヒサ子，藏本淳，大高美代，日本高等学校教職員組合
3	1,591,500 円	2 件	大高美代，日本高等学校教職員組合
4	1,617,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
5	1,487,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
6	1,935,000 円	4 件	日本高等学校数職員組合，縁生の友の会，中尾隆，向井幸枝
7	1,480,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
8	1,995,000 円	6 件	日本高等学校教職員組合，津川弘道，田中文枝，松坂紘一郎，茅原春夫，前田千代子
9	3,200,000 円	5 件	日本高等学校教職員組合，高原義明，杉本純雄，伊藤文明，伊藤千賀子
10	1,435,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
11	1,595,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合，原田義弘，毛利佳代子
12	1,300,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
13	1,270,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
14	1,210,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合，藤岡マツエ，山田ツユ子，国会職員組合連合会
15	6,135,000 円	3 件	日本高等学校教職員組合，国原　浩，国会職員組合連合会
16	970,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
17	1,281,033 円	3 件	日本高等学校教職員組合，国会職員組合連合会，第 27 回日本健康増進学会
18	930,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
19	870,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合
20	850,000 円	1 件	日本高等学校教職員組合

８　核兵器禁止平和建設国民会議からの寄贈物品

（単位：円）

年　度	寄　　贈　　物　　品	評 価 額
45	毛糸編機 6 台、ラジオ 1 台	292,000
46	カラーテレビ 1 台、長イス 11 脚	237,000
47	フィルム保管庫 5 台	125,000
49	フィルム格納庫 9 台	251,000
50	スロンブエラストグラフ 1 台、毛糸編機 4 台	1,750,000
52	顕微鏡 1 台、毛糸編機 3 台	442,000
53	胃カメラ 1 台	1,210,000
54	気管支ファイバースコープ 1 台	1,300,000
55	眼底カメラ 1 式	1,385,000
56	ガストロファイバースコープ 1 台	1,500,000
57	ガストロファイバースコープ 1 台	1,313,500
58	大腸ファイバースコープ 1 台	1,411,000
59	気管支ファイバースコープ 1 台	1,115,000
60	オートプロジェクター1 台、内視鏡格納棚 1 台、吸引器 1 台	915,000
61	ガストロファイバースコープ 1 台	1,300,000
62	顕微鏡 2 台	1,009,000
63	超音波診断装置備品	1,044,000
平成元	顕微鏡 1 台	1,510,000
3	全自動身長体重計	708,000
5	体内脂肪計一式、吸引器、検眼鏡 1 組、パルスオキシメーター1 台	958,106
6	体内脂肪計一式、インターバル・パワートレーニング・マシーン	826,825
7	造影剤遠隔注排装置一式	1,000,000
8	血圧監視装置、視力表照明装置	994,980
9	酸化電位水生成機	875,000
10	ホルター自動連続血圧計、エルゴメーター、マイクロチューブ用遠心機	907,370
12	自動グルコース測定装置	1,500,000
14	上部消化管用スコープ	1,491,000
16	全自動グルコース測定装置	1,250,000
18	内視鏡洗浄器	1,249,500
20	超音波診断装置プローブ 1 台、ゼリーウォーマー1 台	893,550
合　　計		30,763,831

※ただし、平成 6 年度以降は、核兵器禁止平和建設国民会議が広島市に寄贈した物品を、同市から貸与されたものである。

９　日本労働組合総連合会広島県連合会

年　度	寄　　贈　　物　　品	評 価 額
平成 10	気管支ファイバースコープ 1 組、高周波焼灼電源装置 1 台	2,477,916
13	自動赤血球沈降速度測定機 1 台　赤沈管 100 本	1,839,915
15	下部消化管用細径スコープ 1 本、カラービデオプリンター 1 台	3,200,400
合　　計		7,518,231

事業概要　平成 21 年（2009 年）

財団法人 広島原爆障害対策協議会
（略称：広島原対協）

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目８番６号
広島市総合健康センター内

TEL　082-243-2451(代表)
FAX　082-241-0414
URL　http://www.gentaikyo.or.jp/